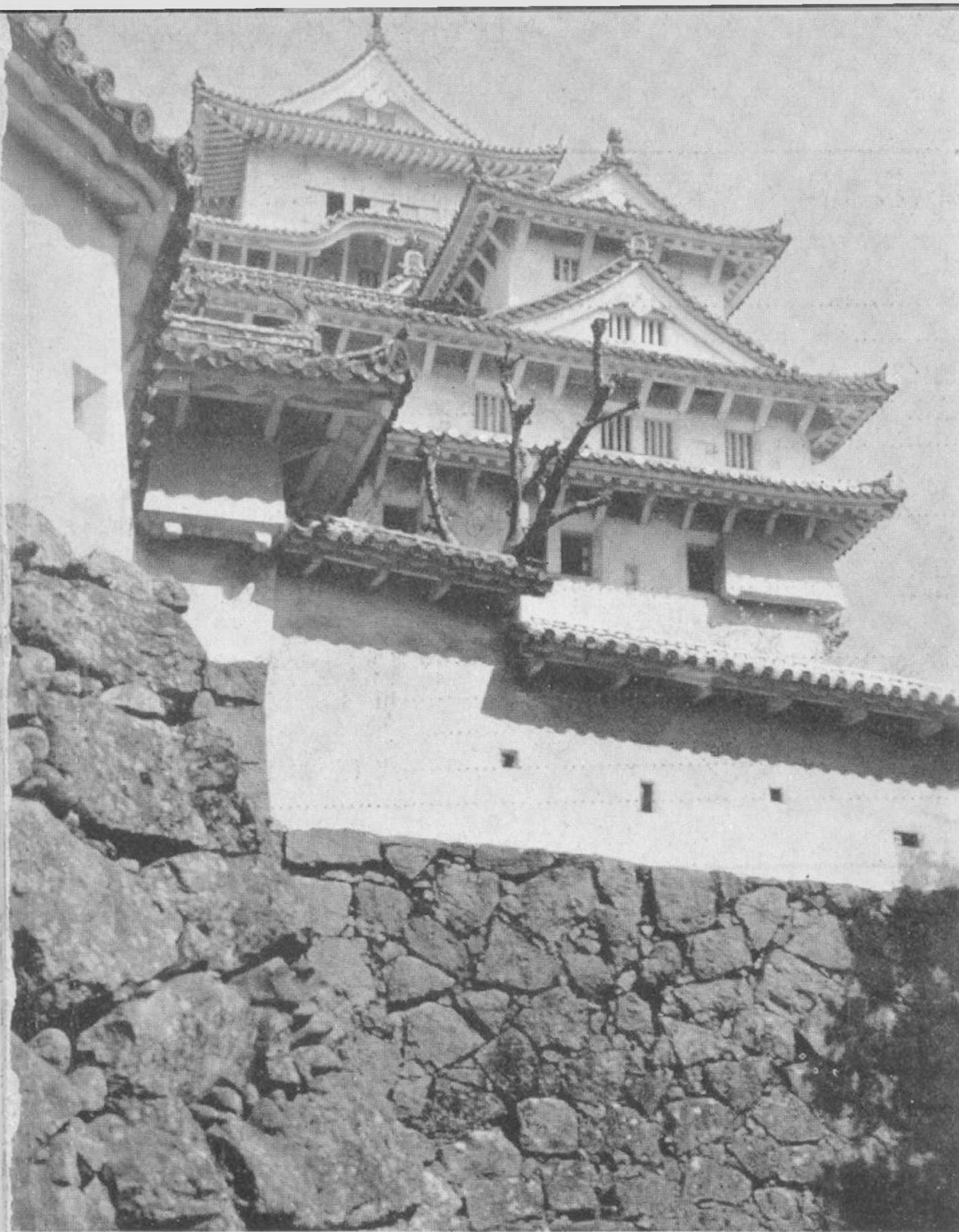


エスペラント研究

JARO XVII N-RO 10



REVUO ORIENTA

1936

JAPANA ESPERANTO-INSTITUTO OKTOBRO

| | |
|--------------------------------|-----------------------------------|
| 萬國エスペラント大會招致..... | 433 |
| 文獻擴充第一主義..... | 露 木 清 彦 434 |
| 實にならぬエスペラント漫談 (3)..... | 高 橋 邦 太 郎 437 |
| 滿洲國旅行案内案に對する請求書を整理して..... | 笥 太 郎 438 |
| 南洋線の旅..... | 林 好 美 441 |
| 一星落つ..... | 竹 中 治 助 443 |
| オリンピック商賣往來..... | 前 波・永 田 445 |
| 日米學生會議における國際語討論..... | 川 本 茂 雄 久 保 貞 次 郎 446 木 村 豊 |
| Marta 語彙に關す二三の統計..... | 城 戸 崎 益 敏 450 |
| 黑板 Esp-Jap na Vortaro の原本..... | 川 崎 直 一 455 |
| 動詞 Fari の用法..... | 小 坂 狷 二 457 |
| 山の王者..... | 萬 澤 ま き 子 460 |
| 内外エス運動..... | 465 |

我國に於けるエスペラント普及・研究・實用の中心機關

財團 法人 日本エスペラント學會

東京市本郷區元町一の一三
—【電話小石川(85) 5415 番 — 振替口座東京11325番】—

世界エス運動の中心機關萬國エスペラント協會(UEA)に對し我國を
代表する本會に入會され我國のエス運動を援助せられよ

| | |
|---------|--|
| 目 的 | エスペラントの普及、研究、實用 |
| 事 業 | (a) エスペラントに關する各種の研究調査及其發表 (b) 雜誌及圖書の刊行及外國エス語書籍の取次 (c) 講演會講習會の開催及後援 (d) 其他本會の目的を達成するに必要な事業 |
| 會 費 | (a) 普通維持員 年額2圓40錢 (b) 正維持員 年額3圓 (c) 贊助維持員 年額5圓 (d) 特別維持員 年額10圓以上 (e) 終身維持員 一時金100圓以上 |
| 維持員へは | La Revuo Orienta を無代配布する他當會發行新刊圖書の割引等をなす ことあり |
| 本 會 の | 普通維持員を除く他の維持員はすべて萬國エスペラント協會(UEA)の 普通會員 (simpla membro) となる |
| 入 會 手 續 | 住所 職業 姓名(振カナ付)を明記し會費一年分を支拂へばよい |

會則及發行及取次内外圖書目錄要郵券二錢

役 員 名 簿 (五十音順)

| | | | | | |
|----------|-----------|--------|-----------|----------|---------|
| 理 事 長 | 大石 和三郎 | 同 東部部長 | 土 岐 善 磨 | 理 事 (常任) | 三 石 五 六 |
| 理 事 副 長 | 井 上 仁 吉 | 同 監 事 | 西 成 甫 | 同 (同) | 美野田 琢磨 |
| 同 元東北大校長 | 井上 萬壽藏 | 同 | 藤 澤 親 雄 | 監 事 監 事 | 鈴 木 正 夫 |
| 同 | 上 野 孝 男 | 同 監督局長 | 前 田 穰 | 同 | 堀 眞 道 |
| 同 | 小 坂 狷 二 | 同 監 事 | 望 月 周 三 郎 | 同 | 清 水 勝 雄 |
| 同 中大教授 | 川 原 次 吉 郎 | 同 | 柳 田 國 男 | 顧問 法 博 | 樫 積 重 遠 |
| 同 文 博 | 黒 板 勝 美 | 同 (常任) | 大 井 學 | 同 子 爵 | 三 島 章 道 |

LA REVUO ORIENTA

萬國エスペラント大會招致と

オリンピックへの働きかけ

1940年に萬國エス大會を東京で開けといふ意見が我國の同志の一部でとなへられてゐる。いやしくも日本のエスペランティストで萬國エス大會を日本に開くといふことに反對する人は恐らく一人もゐまい。併し經費その他の問題を考慮する時は我々を逡巡せしめるものが相當にありはしないか。(萬國大會開催について考へるべき事については本誌8月號31頁の宮崎氏への解答を参照されたい。)

萬國大會の經費中最も多額を要するものは何といつても UEA へ支拂ふべき licencpago である。目下 UEA も火の車だし licencpago は結局は役員の大會出席の旅費にあてられるらしい事を考へると日本への旅費は多額故相當の高額を要求されはしないかと考へる。

目下學會事務局では札幌大會の ekskurso 参加者有志の申合せにより目下 UEA に幾何の licencpago を要求するか問合せを出すことになつた。又萬國博覽會事務局に對しても經濟的援助をえられるか否か目下交渉中である。いづれこれらについては後日發表できると思ふ。そして經費の總額の目安が大體きまれば萬國大會招致の可否についての意見の交換ができよう。今の所一番の問題は licencpago である。これがなければ日本大會の四五倍程の經費でも萬國大會が開かれる。しかし licencpago として一萬圓も二萬圓も要求されるとすれば總額は三四萬圓になるから日本大會の百倍の經費(1932年東京での日本大會は三百數十圓の經費)がいることになる。だから licencpago の額が未定の間は萬國大會招致の可否を論ずることはできぬ。經費の多寡が賛否のわかれる所である。經費が少なくてすむのなら誰一人反對する人はないのである。

三萬圓も五萬圓も經費がいるといふのであつてしかもそれらの經費の大部分が全日本エスペランティストの貧弱な懷中から出さねばならぬとすれば我々は萬國大會よりももつと宣傳上有效な仕事はありはしないかといふことを一應考慮せねばならぬと思ふ。

とにかく萬國大會招致問題については UEA と萬國博の返事が判明してからお互に研究してみても決しておそくはないと思ふ。

萬國エス大會の招致はともかくとして 1940 年にくるオリンピック大會やペンクラブの大會その他日本にひかれる數十の各種國際大會に對して我々は大いに働きかける必要があると思ふ。そのためさしあたり學會内エス運動後援會では早速オリンピック大會とペンクラブへの働きかけのため去る 19 日の幹事會で豫算もとりに着手することになつた。

オリンピックへのはたらきかけは體協その他の幹部を歴訪して競技用語をエス語とすることを申出ること。一方あらゆるオリンピックでの競技についての術語のエス語譯を選定すること。オリンピックの一流選手や體協幹部との座談會をひらくこと。オリンピック選手に對するエス語講習を開くこと。等々その他種々の目論見をたててゐる。どの程度に成功するかは豫測できないがやはり我々の努力次第で多少の効果はあげられると思ふ。

萬國博覽會に對しても(萬國エス大會の支持のあるなしは別として)大いにはたらきかけ各國への招待狀案内狀その他にエス語を活用される様働きかけるといふことも考へてゐる。この方は同事務局でも相當のりきであるから或程度の實現は困難ではない。

來年のエス發表 50 周年紀念をかねた日本大會もできるだけ盛大にして外部への宣傳に主力をそそがねばならない。

我々の目前にはあまりに澤山の仕事が山積してゐる。我々の働く時は今だ。(J. O.)

文 献 擴 充 第 一 主 義

エス運動・力點のおきどころ・4

露 木 清 彦

はしがき：エス語が發表されて未だ 50 年にしかならぬ今日、及びそれが人爲に發達して來たこと、然しその社會性の薄き現状、斯語が國語ではなくて國際間の用語であること、これらを前提として最近の傾向及び諸問題に對する私見を披瀝してみたい。妄言は豫め多謝する。

文化の發達：人類の發生當時は勿論文字はなかつた。然し各民族がそれぞれの文字を使用する様になつた時、お互ひの文化接觸によつて言語並びに文字の混淆も來した。此の場合文化は常にお互ひの刺戟によつて發達した。外界より刺戟のない時そこには何らの文化向上はみとめられない。例へば我國に於ける漢字の渡來及佛教文化の傳來は一躍原始草昧の時代より「日出づる國」の誇らかな時代を現出した。又私達に残された古事記や日本書紀によつて草昧時代の民族思想や言語、習慣その他の事情を知る事が出来る。之は文字の有難さである。

文字と文化：所謂口碑傳承時代に於て語られたものがたとひ文學的或は歴史的價值があらうとも、もしそれが口寫しに傳習されたものなら、時には誤謬を生じたり亦省略が施されたりする。亦その民族の消長と前後してその運命を共にすることは識者の齊しく認めるところである。例へばアイヌ民族の文化の様に滅びねばならぬ運命に直面する私達が躍起となつて之等を文字に寫し残さうとするのも之が爲である。之はエス語についても云へる。

文字は千古不朽：又私達はたとひそれが難關であらうとも、千古の昔に残された古代エジプト、バビロン、キッタン等の諸文化をそれらのバピルスや土版等の文字によつて臚氣にも窺ひ知ることが出来る。語られる語そのままではそこに何等の進歩も認められず、向上も望めない鳥の囀りは鳥の言語である。また人間にしても文字のない民族例へばアイヌ民族や南洋の土人が如何なる文學を持つて居ようとも語られた以上に發達してゐない。むしろ時の推移と共に忘れられ亡びて行く感がある。エス語が單に語られることを無上のものであるとすれば鳥の囀聲と異るところなく南洋の土語と五十歩百歩でありエスペランチスト間の合言葉或は通信用語にしか價しない。如何に達者な話し手でもその死後は何も残らない。一度文字として残したものは千古不朽であるまして、エス語は人爲的に國際語として造られた言語であつて自然的に話されたままに發達して來たものではなく、ザメンホフが斯語を發表して以來文献を造るべく幾多の翻譯に終始してゐたのも之が爲である。

エス語の社會性：人爲的に發達した言語を受け繼いだ私達はあくまで人爲的により以上に發達せしめねばならない。エス語の社會性の未だ薄き今日此の強化を計るにはどうしたらよいかと云ふ事が重大問題である。勿論使用者を多くする事はその理由の一つである。然しエス語を何の爲にやる、やつてどうなる云々は私達のよく浴せられる質問である。民族自覺の理想世界平等、平和等々が一般の常套的返事である。然し大衆はそれによつてすぐ學び初めたらうか大衆に呼びかける前にもつと私達のせねばならぬ事がありはせぬか。私達自身もつと水準を高めることだ。如何なる質問にも答へ得る自信を持つことである。斯語によつて勉強が出来ること云ふ誇を持つ事である。之がエス語をしてその社會的の確實さを裏書きするものである。一言

にして云へば文献をふやすことであり他の言葉を以てすればエスペランチスト自身がつと水準を上げて各々専門的立場から自己の分野を開拓してその收穫をエス語に移して行くことである。之は幾度か先人によつて云ひ盡されてゐる。然し實踐的工作をする者が少く又實用機關もないではないか。

自覺：大樹は決してその種子の持つ力よりは偉大ではない他力本願的な考を持つてゐる者には——自分の力を信ぜずに自己催眠にかかつた様に他の偉大なる力を待つ彼のヨーロッパ中世紀に於ける被征服民族がいつか一人の英雄が現はれて自分達を救つてくれるだらうと云ふ淡い望を抱き千秋の思ひでその日を待つてゐるにも似た——誰かがやるだらう自分はただその日が来るまで餘命をつないで居ればよいと云つた氣持で向上もなく發展もなく又さしたる退歩も見せずただ3年5年と同じ所に足踏みしてゐる人達も尠くはない。エスペラントの仕事はエスペランチストがせねばならない。然し盲目的にエスペランチスモを信奉し無暗と普及宣傳に猪突猛進する人は足元を注意せねばならない。

會話會の特殊性：鐵道クラブ時代（數年前學會主催の）は純然たる會話の練習場であつた。それが喫茶店の一角に巢食ふ様になつてからは、むしろエス語を味はふ社交場となつた。従つて話せぬ者はその社會には受け入れられなくなり時には之が怨嗟の的ともなつた。又外部からは猜疑的眼を向けられる。そして會話會の責任者となる者の淋しさ！自分はすでにその設立の當初から居るのに連中は1人ふへ2人へり、或は2人増し1人去り、幾星霜移るも所謂責任者のみは行く水の流れを見送る岸の柳の様にじつと移り變り行く連中を見守つて老ひ行く果敢なさ。時期につれその消長はあるが3年、5年、7年、そこに何ら發達も向上も認められない。しやべる、飲む、食ふ、愉快ではあらう、時にはあひびきもあらう。然しただそれだけである。鳥の群りと何ら異るところがない。けれども之がエス語を享有する事を許されたる者の唯一の慰安場ではある。

エス語は國語ではない：會話會の延長が家庭である。1週1回の會合に飽き足りぬ人は家庭でもエス語を振り廻す。エス語が世界の言語を統一する言葉であると考へてゐる人があるかと思ふと何でも彼でも之を日常使はねば氣が収まらぬ人もある。ただ親だけの趣味で自分の子供にエス語の名前（それが日本語と調和がとれればよいが）を附けたりするのは考へねばなるまい。甚だしいのになると家庭に於て小供にエス語ばかりしやべらせて得々としてゐる人もあるが之等はエス運動過渡期に於ける極端なるナンセンスの例である。エス語は畢竟國際間の用語であつて決して國語にとつて代るべき性質のものではなく又第二國語でもなく之を以つて子供を教育する必要もない。出來得べくんば中等學校でエス語を採用されるのが最も望ましい事であるがそれにはエス語によつて知識を得られる本がつと（現在では皆無と云つてよい）出來なければだめである。尤も機を見て出版屋が手を染めるではあらうが。否、その本を書ける人が簇出する位でなければだめである。エス語を中等學校にと叫ぶ前に私達は作家よ出でよと叫ばねばならない。然しもう一步進んで考へると此の作家を優遇すべき機關が設けられねばなるまい。種蒔きばかりがエスペランチストの仕事ではなく之を成育させ收穫する人もなくてはならない筈である。

精力の集中：色々の意味でエスペランチストは多忙である。エス語に對するその純情さはうれしいと思ふが讀みもしない本もハクライであると思つてもみたくなるし名につられい寶典かなんぞの様に買はねばならぬ様にも思ふ。そうかと云つてそれだけその人が向上すると思へない。誰しもエス文法家或はエス語學者にならうと思つてはゐないのであるし。單なるエス運

動闘士にならうとも思つてはゐないのであらうから、語學書にそれほど凝る必要もなし運動書に目を曝す必要もない。エス語の研究は重箱の隅を楊子ではじくる様な些細な點にのみつまらぬいたづらをくり返して居つてはいつまでたつても進歩は望めない。語學の不得手な日本人が餘りにも語學的不得手を敢てしているのはこんないたづらをしてゐるからである。精力の浪費は決してその人の向上を促すものではなく、やがてはその人を倦怠へ導くものである。精力は集中して使へば2倍にも3倍にも使へるものではなからうか。

専門機關を強固に：一人のエスペランチストが普及運動をしたり講習指導をしたり又自分も向上せねばならぬとしたら精力の消滅は餘りにも甚だしい。人類は社交的動物で外界に適應せんが爲には團結を固うするの要があり、能率をあげるが爲には分業の制が必要である。私は各種寄合世帶的中央集權より各種専門分科機關の強化獨立を希ふものである。既成機關について云へばエス佛教聯盟、エス文學研究會、鐵道エス聯盟、科學エス協會等、皆それぞれ獨自の歩みを續けて行くがよい。又専門機關はよく後學の道を拓きその向上を促すべく盡力すべきであり且つ埋れたる地方人の發展の爲に暖い手を伸ばし培養を怠つてはならない。そしてエス語の社會性の薄き今日此の強化の爲に各分野を開發し文献を豊富にして之を世に問ふのを私はエスペランチストの使命の第一義とするものである。即ち文化的述作を以てエス語強化を計らんとするものである。

エスペラントの價値は學ぶにあらず廣めるにあらず、その活用にあるのであつて而も之を國際的に利用してこそはじめてその眞價が現はれ、民族文化を助長せしめ己れの短を捨て、他の長を採ることにより、人類の力を以て到達され得べき極致として、茲にはじめて所謂世界的文明の完成を見るべきではあるまいか。

結語 以上縷述した所を要約すれば我々エスペランチストの仕事として最も緊急かくべからざるものは**エス語文献の擴充**のための努力であるといひたい。鳥の囀り様な會話會は會話の練習には役立つがその場限りで消えうせるものだ。宣傳々々と空元氣をだしてどなつてあるいても實際に讀む本がなくては一般大衆特に知識階級の者がとびついては來ない。何を措いても文献を多くすることだ。廣く云へばどんな文献でもいいができるなら文化的述作でありたい。社會各方面の分野における文化的文献の擴充こそ焦眉の急務だ。

20年30年の昔と比較して今日のエス界には相當文献もふえた。しかしそれは大部分文藝方面だけにすぎない。その他に自然科學方面の文献が多少ある。しかし文化科學方面の文献が殆んど皆無と云つても過言でない。哲學、論理學、倫理學、民族學、史學、經濟學、法律學等々の文献がほしい。

云ふは易く行ふは難し、私は經驗は浅いが、身を挺して一つの試鍊臺に上り將來の人達がエスペラント文献の一大殿堂を築くであらうその土臺石となり人柱ともなることを敢えて辭せず今後の方針を次の様に樹立してゐる。エス語の社會性を強化する爲にエス文献を豊富にする事(此の爲には第一に自己の向上を計らねばならない)。その一端として東洋文史研究所を中心として日本及東洋文化の世界的振興を計り(仕事は即ち國家的意義を持つて來る)、一方埋れたる地方人の開發を計ること(勞して功なきの結果に了ることを恐れて學習さへ逡巡してゐるものが多い)。一般エスペランチストの水準を最高峰まで引揚げなるべく機關誌“Orienta Kulturo”を開放してその實用の託兒所とすること(投術的不自由の爲に述作もはかどらぬ人達の爲に出來るだけの補導もしたい)。

これら小さな努力がエスペラント文献擴充の爲に多少なりとも貢獻するところがあれば私の

喜びとするところである。而して此の搖籃の中から藝術家的熱情と學究的良心と政治家的霸氣と實業家的策略と工業家的細心な頭腦をもつた偉大なる著作家の現はれることを望んでやまない。

實にならぬエスペラント漫談

(3)

高橋邦太郎

エスペラントと圍碁——獨逸ドレスデン市の Rüger 氏から 5-6 年前圍碁に興味を有する samideanoj に紹介し呉れと依頼して來たから、策碁ながら自分も好きである、曾つて露人の需に應じ手ほどきした原稿があるから、御望みなら送つて上げやうと言ふてやつたら、其返事に、自分も下手ながら多年圍碁を研究し、別冊の如き著述もあるとて Das Go-spiel と云ふ單行本や Go-zeitung と云ふ雜誌などを送り越し、又其後家兄と打つたと云ふ碁譜を送り越し批評し呉れとの事一見して私には齒が立たず、三級格の知人に持行き見て貰つたら「大概私と同じ位だが、此一手を見ると少し私より弱いかも知れぬ」とあつた。右 R 氏とは今でも通信を繼續してゐるが、これが縁となり、碁石圍碁雜誌漢和辭林等色々の註文が次から次とあり、當市の關係商店ではエス語の御蔭で直接獨逸に其商品を輸出するに至つた事を非常に喜び誇りとしてゐる。

老人と幼兒——餘り古い事で其名前さへ記憶せぬが、たしかグラスゴの samideano であつたと覺ゆ、通信を開始した際、當時の經驗に依れば通信仲間に青年男女が多いので、今度も同様と心得自分は 50 何歳の老人であるが、それでもよかつたら通信しやう」と申してやつたら、其返事に「50 何歳で老人とは僭越である、自分は 60 何歳だが、未だ前途多望の青年と心得て居る云々」とあつた。同青年今尙存命であつたら十八歳以上であらう。次に先年佛國カンヌの Del. Cresp 氏よりの依頼に應じヘチマの種子を送つたら、それを播種して成功したと懇ろな禮狀が來たが、其中に自分の姪甥に同志あり、外國人と通信させたいから晝はがきなり送つて呉れとあつたから、早速簡単な通信文を認め兩人に晝はがきを送つたら、やがて可愛らしい金釘流の返事が來た。其寫眞を見ると驚く勿れ甥の Eçjo は乳母車の中で牛乳瓶を抱へ乳首から吸つて居り、姪の Denjo は 2-3 歳の年長で其傍らにエンコしてゐる。尤もこれは幾年か前の寫眞であらうが、此二人と前陳グラスゴの老人とは私の 30 年來の外國通信者中年齡の兩極端であつたと思ふ。

Boulogne s/mer と静岡——當市に Delahaye と云ふカトリックの親父さんがゐる。同教會專屬の富士女學校の姉妹校とも云ふべき實科女學校を經營し、老生に英語教授を受持つて呉れぬかとの所望、老生これに答へて「御校の外國語は隨意科ではないか、何故英語の代りに佛語を教へぬか」と申したら「横濱とか神戸あたりなら兎も角、静岡では外國語と云へば先づ英語と心得居る日本の大勢に従ふより外はない」「然らばいつそエス語を教へては如何」「エス語に就ては自分も知らぬ譯でもないが、先年歸國せし際もフランスで餘り歡迎されてゐなかつた」「それは貴下の認識不足だ、一體貴下の御郷里は?」「ブーロニユ、スウル、メール」「はアそうですか、それでは貴下はエス語とは切つても切れぬ縁があります」と第一回のコングレスの話などをし「それでは英語教授の間に任意にエス語の宣傳差支なしと云ふ條件の下になら御依頼に應じませう」「それでよろしいから御願します」とあつて遂に契約成立、それから老體を

提げて一週2-3時間英語の教壇に立ち、時にはエスペーロのレコードをかけ、時にはポーナン、ターゴンの説明などをしたが、一學期終了後「段々御苦勞でした、丁度若い後任者が出來ましたから御休息下さい」と體よく辭はられた。然し此間に一人の女教員及び其夫を esperantigi し得たのは望外の收穫であつた。其後親父さんに逢つた時「東京のカトリックでもエス語講習が始まりました」との事、これは申すまでもなく上智大學佛語教師田沼利男氏の獻身的奮闘に就いて聞き込んだものであろう。其後ブーロニウ市に施設された Zamenhofa placo の記事を和譯して同氏に示した。因みに同親父さんは我國在住 30 餘年、日本語は新聞でも讀める位上達してゐる、エス語に轉向も今一ト息の處である。

代議士と總領事の問答——大正4年秋中目氏と相携へてハルビンの同志を訪問せる時の事、時の東清鐵道總裁ホルワート將軍が我代議士の一行 10 有餘人の爲め盛大なる歡迎の宴を張つたが、如何なる行違ひか、我等兩人も其末席に列するの榮を得た。末席とは申したが、其實主賓仙石博士を最上席に、それに隣りホ將軍、其次席は中目氏であつた。これは察する所、同地エス語協會長にして鐵道主任技師たるカジギレー氏が、中目氏は將軍と同じく佛語を解するので、話相手としやうと取計らつたものであらう。當時の總領事は現佛國大使佐藤尙武氏であつた。私は同郷の好みもあり旁々其翌日中目氏と共に領事館を訪問したら、佐藤氏の話に、昨日閉會歸館後代議士團代表の訪問を受け、同氏との間に左の問答があつたとの事

代「あの兩人は一體何者であるか、エスペラントとか何とか云ふものはあの饗宴と何の關係あるか、我等の上席に座を占めさせるなどは不都合千萬だ」

佐「小官は帝國政府の總領事として當地に在勤してゐる者であるが、露國側で招待する客の入選に就き、又其座席に關し容喙する權能は與へられて居らぬ、右兩人は何の爲めに來合したのか、又如何なる動機に依つて招待されたのか、一切小官の興り知らぬ所、御不滿も一應御尤もの様であるが、どうか其事に就ては直接ホルワート將軍に御談じを願ひたい」我々はこんな事とも知らず他動的ながら我選良に對し禮を失した事は全くエスペラントの祟りで、今尙恐縮に考へ居る。

支那人に宣傳——大正6年杭州から錢塘江を溯航する事十有餘日、歸途沿岸の諸處に上陸觀光したが、其内前安街と云ふ町に府立第二師範學校を訪問した。校長胡氏は案内者關氏と同郷人と云ふので私は意外の優待を受けた。接待員として英語の教師二名を附し、是非にとの厚意默し難く同校に一泊し、翌日晝食まで饗せられた。エス語を利用し得なかつたのは残念であつたが、上海エス語の狀況などを詳説して大いに宣傳に努めた。二名の英語教師は無論の事、校長自身も早速上海より教科書を取寄せる様な氣配を示したが、果して私の宣傳が成功したか、どうか分らぬ。

滿洲國旅行案内葉に對する 請求書狀を整理して

寛 太 郎

✓ 滿鐵最初のエス文案内葉 “Gvidfolio por Vojaĝantoj en Manĉoukūo” が出來上つたのは昨年 11 月中旬のことであつた。爾後約半歳にして千部を配布し盡し現在第 2 の案内記たる

るかと考へる。尤も此の數字のみで之を速断するの危険であることは言ふ迄もない。如何となればエス語が如何に盛でも旅行趣味の普及しない國からは當然此の種案内記の請求等澤山來よう筈はない等々の事が考へられる。

尙此の數字に依つて請求に對する禮並に批評の割合を見ることも頗る興味深きものありと考へる。即ち兩數字の小なる諸國を除けば、ドイツの 22% を筆頭にスエデンの 20%、次いでデンマルクの 16% の順で、飛んだ所でお里が知られる譯である。

III. 之等の請求書面の殆ど全部がエス語で書かれてあつた事は勿論であるが、尙次の如き合計 6 通の例外があるから面白いではないか。

| 言語別 發信國 | 英 語 | 佛 語 | 葡 語 | 英エス併用 |
|------------|-----|-----|-----|-------|
| ブルガリヤ | | 1 | | |
| イタリヤ | | | | 1 |
| オランダ | 1 | | | |
| ポルトガル | 1 | | 1 | |
| スペイン | 1 | | | |
| 計 | 3 | 1 | 1 | 1 |

IV. 今度は之等 400 通を超える通信が如何なる様式に依つて爲されたかを調べよう。括弧内の數字は禮若くは批評である。

| | 封 書 | 官製端書 | 私製端書 | 繪 端 書 | 計 |
|----------------|--------|---------|----------|--------|----------|
| タイプライター 印 書 | 18 (1) | 30 (2) | 19 (3) | 6 (1) | 73 (7) |
| 手 書 | 55 (5) | 100 (4) | 95 (11) | 76 (7) | 326 (27) |
| 計 | 73 (6) | 130 (6) | 114 (14) | 82 (8) | 399 (34) |

之に依つて知らるゝ如く何と言つても官製端書に手書したものが一番手軽に済む丈けに最も多數を占めてゐる。丁寧な封書が最下位にあることは矢張り能率主義の世なればこそと言ふべきか。尙此の形式に依つて各國別の調査も出來てゐるが残念乍ら割愛する。之を見ると、比較的封書を使ふ國、繪端書を愛用する國等々が判つて興味があるのだが。

尙タイプライター印書と手書とに分けて數字を出した動機は、豫て外國ではタイプライターの使用盛なりと心得てゐたにも不拘案外手書請求狀の多數なるに不審を抱いた結果であるが、萬一手書の壓倒的多數を占める原因が、エスペランチストにはタイプライターを買ひ得ないプロレタリアの多い爲と言ふのだつたら聊か考へさせられる。兎も角此の現象はどうも遺憾乍ら丁寧を期し親愛の意を表せんが爲めに故ら手書した結果と許りは解しかねる。

何れにせよ案内葉の發送に當つて一番弱らされたのは此の手書であつた。町名、氏名等前後

の関係から判讀し得ざるは言ふ迄もなき處、而も之を誤記すれば忽ち配達不能と突き返される。成程書く方として見れば手慣れたアドレスではあらうが、アルファベートこそ變らねドイツ流、スペイン流、オランダ流等々の達者な走り書き。それにつけても國內の同志諸君よ、六ヶ敷い日本名を妙な（失禮）字で書き連ねてあちらの發送係を泣かせぬことである。

V. 四百も手紙を受取るとなかなか面白いこともある。案内記請求の序に通信の申込、切手交換の申込をして來た人も相當あつた。困つたのはあちらにも慌て者のゐることで、オーストリアから發信者のアドレスの無いのが1通來た。今頃は未だ送つて寄越さんと満鐵の悪口を言つてゐる事だらうが何とも致し方がない。それから内國郵便料金で投函されたお蔭で、不足税を取られたのも英、米に各1通あつた。此の反對に前述約20通の内地エスペランチストからの請求書狀中2通は外國郵便のつもりで10錢切手が貼つてあつた。更に其の内の1通等念入りに國際返信券が封入してあつた。之は郵便法に對する認識不足と言ふべきか、大連に對する認識不足と言ふべきか。〔完〕

南洋緑の旅

林 好 美

エスペランチストである前に私は藥劑師であるつもりなのだが、私の旅はいつも緑の旅になつてしまふ。

これまで相當旅はしても3年前九州の鹿兒島まで行つた外、其後南へ行つた事がかつて無い。動物は南を慕ふのが本能かも知れぬが、私の場合は病的な程激烈且久しく南に憧れてゐるのだ。8年前、シベリヤ經由でイギリスへ行つた際に、船と財布の都合で印度洋が渡れず、又シベリヤを引きかえさねばならぬ時の落膽さと云つたらなかつた。その悄氣かたは我ながら氣の毒になつた。こんど願ひが叶つて臺灣、フィリッピンを旅する事の出來たのは、私にとつて實に大願30年の成就である。

世の經濟機構を度外視した様な旅であるが爲に、港々の水上警察の目はよく私の上にそそがれた。5月29日神戸出帆の瑞穂丸船上へ大阪の進藤氏がだしぬけに來られて見送つていただいた。その節私達は船のサロンで半時間と云ふもの、たてつづけにエス語でしゃべつてゐるのを、ひそかに立ち聞きしてゐた私服が、あとで進藤さんのお身許をきいてゐた。

ところは門司港外、瑞穂丸のスモーク・ルームである。三四名の私服、制服の警察官が怪しい船客を呼びつけてしきりに調べてゐる、其中の親分らしいのは脊廣を着て精悍な顔をした男で、髪を無頓着になであげ、不精髯をはやしたところ、映畫のダグラスそつくりである。ダグラスが扮した警察官の様だ。若い内地女、臺灣本島人、商人等々、随分亂暴に調べられてゐる。ほんとを云へば私はダグラスが一寸恐くなつた。

私の調べは難しいとあつて最後に残される。そしてやつと私の番になつた。

『どうぞおかけ下さい。どうもお呼びたてしまして』

ダグラス・フェアバンクスは極めて丁寧、慇懃である。

『フィリッピンには幾日御滞在の豫定ですか？』

『二週間です。がんじす丸で行つてがんじす丸で歸るのですからその間に二週間ひまがあるわけなのです。』

『一體何が目的でいらつしやるのです』

『観光です。幼いときから熱帯地の自然風景に憧れて居まして……つまり椰子の樹が見度くて仕様がないうのです』

ダグラス氏は如何にも腑に落ちぬ顔をしてゐられる。

『おかしいですね、一、二、三等客を通じて貴方のやうな漫然とした目的で旅をしてゐるものは一人もないのです。椰子の樹ならどこでも見られるではありませんか。内地だつて』

『そうですな。私も先年見ましたが、九州の青島にはビロウ椰子が澤山生えて居ますねえ。でもあれはビロウだけですから』

『おかしいですねえ、椰子を見にわざわざマニラまで出かけるなんて、どう考へてもね……』と云つてそばにゐる二、三名のボーイ達に向つて笑はれる。

『でも世の中には経済機構の外に立つ詩人、藝術家と云ふ様なものもあるんですから、私等は其仲間です、ええと、私が國を出るとき私の事を書いた新聞がありますから、それをお目にかけませうか』

私は5月25日の大朝の三重版と伊勢新聞を見せた。『エス語使節、いともんびりマニラへの旅』等と大きな見出しで私の事が出てゐる。

『ホホー、これは貴方ですね』ダグラス氏は朝日に出てゐる私の寫眞を眺められる。そして眼はニュース並に興味ヴァリウを本位にしたその本文に喰ひ入つていささかでも疑點を發見しやうとつとめられる。

『フィリッピンはこの貴方の知人と云ふ人の住所と名前とを書いて下さい』

マニラのサミデアーノであり文通友人である、シメオン・ガルシャ氏の名前は今回米國領事館を訪問以來、私の保證人として度々其筋から書かされるのである。

『ハハア、これは毛唐ですか？』

和製ダグラスは所謂毛唐ではなかつた。

『あのう、毛唐と申しますと外人と云ふ意味なのですか？』

これはエスペランチストのよく云ふ皮肉のみでは無い。毛唐人と云ふおかしな、そして圖星を射抜いた様な失禮な言葉は紅毛白色人種のみに云ふ言葉では無いかと私は思つたのだ。フィリッピン人は東洋人で我々の同色人種なのである。

『そうです』

『生え抜きのフィリッピン人です。リサームと云ふところの裁判所の検事をやつてゐます。』

と相手はしばらく口を重らせてゐたが、

『何か軍部の秘密があるのぢやないですか？ ありのままに云つて下さい、ここでも何も御迷惑をかけません』

私は驚いた。そんなもののかけらも私は持つてゐない。エスペランチスト中にある極小部分の赤い思想の疑ひが私にもかけられてゐるのかと今まで思つてゐた。

『めつそうもない。私は日本人です。そして元來エスペランチストは平和主義者です。そんな事のありようがありません』

ダグラス氏の顔面筋肉はだんだんゆるんで來た。

『そうですか、エスペランチストの方々は元來、變つた事をおつしやるのですね、よろしくござんす。大變御迷惑をかけました』

これでやつと私は關門を通されたのである。

——臺灣の基隆に上陸したときから私の長年の憧れは満足され始めた。

臺北では、安田勇吉氏、甲斐三郎氏と云つた高官連がわざわざ驛まで来て下さつて恐縮する。それから市内の見物や、專賣局の見學等々、翌日阪東一郎氏と本島人街の見物、甲斐三郎氏方のクンヴェーノ等々、臺北はエス語で旅をしてゐる様なものであつた。

臺北帝大へ着任早々の浅井惠倫氏を訪ねる。これも安田氏達に訪ねさせて貰つたと云ふ方がいい、先年フィリッピンへ行つてこられたので其状況をいろいろお聞きしたのである。

臺南はこれ又サミデアーノイの御案内や御饗應に浴して徹頭徹尾、エス語のアトモスフエーロで見學をした。王雨郷氏、重栖度哉氏に多大の感謝を表せねばならぬ。新鮮なエス語運動地であるが爲、澤山の同志にお目にかかつた。

高雄で前後2日を過したが、6月5日は大雨であつた。土砂降りの大雨が寸時の休みもなく終日終夜續いた。そして雨の中に船はマニラへ向けて出帆した。同志野田憲三氏は丁度昨日から發病されて高雄病院に居られるとのことで、しのつく雨の中を人力車でお見舞した。何の前ぶれもなく出しぬけの訪問なのびつくりしてゐられた。既に拙著『親類めぐり』も辱讀で、一見舊知の間柄である。——二十日の後あてにせぬ都合で又高雄を訪れた。野田さんは既に元氣で、マニラの話等をし、半日を面白く語らふ事が出来た。壽山上へ案内して貰つて高雄州の大觀をした事共私は生涯忘れないであらう。

一 星 落 つ

河合直次郎君の逝去

竹 中 治 助

河合君遂に逝く、8月28日午後3時、大垣市西舟町72の郷里の家で御家族、殊に御兄妹達の手厚き看護を受けながら。



2, 3年來肋膜炎とかで山中、白濱、別府温泉等へ轉地療養を續けて居られた處、昨年名古屋の大會に出席せられて間もない頃胃癌とわかり京都帝大醫院に入院手術を受けられ一時重態を伝えられたが経過非常に良く程なく御全快、暫くの轉地靜養の後、本年春の始めにわ元氣な顔で勤務先中村呉服店に出勤せられたのであつたが、夏の始め頃から再發、7月に入つてわ既に死を豫期してか苦しい病床から名古屋エス會の機關誌 „Ora Delfeno“ 8月號に絶筆 „Revuo pri Literaturo sur Poŝtomarkoj“ の一文を寄せられ吾々同志の希望を完全に叩き付けられてしまつた。享年28歳、河合君のエス生活わ決して長いものでわ無かつたが、運動にわトテモ熱心で、名古屋エス界の爲めに残された功績わ大きい、而かも趣味わ廣く、人柄

で少しも敬の無かつた人だけに、河合君を知る限りの誰もが „私こそ河合さんと最も親しい間柄である“ と思ふのも當然のことであらう。

河合君に就いての思出わ多い、私が名古屋エス・クルーボに屬して東新町の陸ビルの會合に出て居た頃の昭和6年2月に始めてやつて來られ其の後熱心に顔を見せる様になられたが、大垣商業を卒業して中村呉服店に入店せられて間のない河合君わ縞の着物、縞の羽織に角帶を

締め、ザンギリ頭と云ふ恰好で、眞赤な顔をして如何にも謙讓そうな態度であつた事を能く覚えてゐる。由比、佐羽、渡邊(行孝)氏等と共に私達が NEK (名古屋エス・クルーボ) から別れて Lunda Esp. Grupo が新しく生れた(昭和 6 年 4 月 6 日創立)時にも河合君わなかなか熱心な會員の一人で、番茶の家や、ラヂオ相談所の二階で膝を交えて Pinokjo 等を讀んだものだが、河合君の *vigla* な活動わ其の後名古屋エス・クルーボ、月曜エス會の兩會員と其他孤立の同志が大同團結して名古屋エス聯盟を結成し、その聯盟が組織の缺陷から程なく振るわなくなつた頃から始まる、此の頃の河合君わ縞の着物から端正な背廣に變つた姿の様にエス生活の方も著しい進歩をしてゐた。

當時の名古屋エス聯盟の不振にわ新進同志の満足する筈なく遂に河合君わ川村清次郎氏と圖り昭和 7 年 2 月 11 日の紀元節を卜して今のルーマ・クンシードを設立された。併し相前後して多數同志の支持の下に創立された N.E.S. (名古屋エス會) に遠慮して初等講習等も熱心ながら控え目に指導された様であつた。クンシード創立以來隱忍自重 1 ケ年、會の基礎漸く固るに及びて翌昭和 8 年 2 月にわ盛大な創立 1 周年記念會が持たれ、同時に機關紙 La Lumo 第 1 卷第 1 號を自ら編輯發行せられた、此の頃 N.E.S. 會員中に日本大會を名古屋え!! の聲が起るや河合君も熱心な賛成者の一人であつた、ルーマ・クンシードでエスペラント手拭を製作發賣したのも河合君の努力であり、京都に於ける第 21 回大會にわルーマ・クンシードの代表者として出席、挨拶をすると同時にエス手拭を一梱も携行して大會賣店で賣捌く等河合君の活動わ日毎に油が乗つて來た。京都大會から歸つてわルーマ・クンシードの徽章を創定し會旗を作り、越えて昭和 9 年 2 月にわ名古屋ホテルに市内の同志わ勿論、遠く京都の柴山、井上、四日市の福田、服部氏等をも招持してトテモ盛大なクンシード創立 2 周年記念を催された。komencantoj の會と見られてゐたルーマ・クンシードの此の華々しい催しわ、一方 N.E.S. の地味な歩みと引比べて名古屋の同志をどんなに驚かしたことが! 此の頃ルーマ・クンシードでわ機關紙の發行こそ創刊號を出したのみで以來中絶せられてゐたが *intima* な會合やエクスクルソを時々催して會の發展の基礎を作つた、河合君わこうした派手な方面に特に秀でてゐた様である。かくまで熱心に運動を續けて來た河合君わ其の年長崎の第 22 回大會に出席せられて以後とかく健康勝れず、ルーマ・クンシードの一切の仕事を後進に譲り、白濱、山中、別府温泉等に轉々静養を續けられてゐた、而かも其の間各地の同志と廣く交際してエス生活にわ一時も接觸を斷たれなかつたので交友わ全國的に極めて多い。

尙河合君わ U.E.A., J.E.I., J.B.L.E. の各會員であり、死の直前まで大會規約制定委員の一人として同委員會に層々重要な進言をなし、又名古屋エス運動のためにわルーマ・クンシードの指導を爲すと同時に名古屋エス會々員としてエス運動の平滑進展に盡された功績の大きい事を忘れてわならない。

エスペラント以外にも寫眞謠曲切手蒐集、活花、茶道等高尙な趣味にも相當造詣の深かつた河合君、いつか、貯金をして歐米エス行脚をしようじやないか、と私に提案された元氣だつた河合君今や亡し、嗚呼、

河合君わ明治 42 年 10 月 15 日大垣市の老舗河合治平氏の次男として生れ、大垣商業卒業後、昭和 5 年 10 月 19 日名古屋廣小路の株式會社中村呉服店に入店、經理部庶務課に勤務、昭和 11 年 8 月 29 日 19 時御逝去、御兄妹 6 人あり、エス語わ來名以前既に大垣で習ひ始められたとの事である。

オ リ ン ピ ッ ク 商 賣 往 來

雑誌「現代」10 月特大號より抜萃

萬 國 語 講 習 會

東京市大塚市民館 前 波 仲 子
商人相談所擔當

是から又もや語學熱が復興するだらう。だが、英語では陳腐、獨逸語やフランス語などは片寄り過ぎる。エスペラント語に限る。

エス語の講習會を今から始めること。講義録でも結構。四年間習へば相當ものになる。先づ第一に印刷屋さん、看板屋さん、街の圖案師、廣告文案家、専門學校以上の學生、是らは必ず覚えておくこと。

廣告物の製作印刷はうんと増えるし、都市

美の見地から看板の塗換、新造がめつきり増さうから。そして是らには必ず萬國語エスペラントが必要となる。

専門學校以上の學生は、街上での臨時通譯に、隨時利用されようから、エス語と學校で習得してる或る外國語と二つ心得てゐれば萬事重寶、往來で赤恥もかかず面目をほどくことが出来る。

ガ イ ド ・ グ ル ー プ

報知新聞 水 田 利 夫
商賣往來

外人が日本に来て一番困るのは言葉であらう、外國語のうちでも一番通りの良い英語は日本では中等學校の主要科目になつて居る位で英語を読んだり書いたりすることは出来る人が相當多い様である。併し「話す」といふことになると之は何れも苦手で一寸外人に道を聞かれても満足に答への出来る人は少い。之は耳の練習が足りないからである。勿論之は教へてくれる先生が少いのにも原因するが何とかして今の内に良い先生を見付けて勉強しておきたいものである、地方の人は適當なレコードを買つて練習するのもよい。其の次にはフランス語とドイツ語である。之は中等程度の學校では教へる所が少いから讀書の出来る人は勿論話せる人も非常に少いから之が出来ると大變珍重される、其の他滿洲語、支

那語、スペイン語、エスペラント等々いろいろあらう。各自自分に最も得意とするものを選んで勉強する、そして自信が出来たならば毎年二回東京で行はれるガイド(通譯)の試験を受けるがよい。そしてパスしたら直ぐに實地に始めるのもよいが現在活動してゐるガイドは相當あるから今すぐ澤山の人が割込む餘地はなからう。それならば通譯の勉強をして置き前に適當な職業を探して一先づそれに就き大會を待つて活動を始めればよい。仲のよい友達が三人五人と一組になつて一人は英語他はドイツ、フランス語といふ風に勉強してガイドのグループを作り、そのグループ共同の印刷物を作つて適當に宣傳するのもよい、又觀光局、ツーリストビューロー等に紹介方を依頼しておくのもよい。

エ ス ペ ラ ン ト 獨 習 に は

エ ス ペ ラ ン ト 講 座 (全一冊)
エ ス ペ ラ ン ト 捷 徑 („)

50 錢 ㊦ 4 錢
50 錢 ㊦ 4 錢

財法人 日本エスペラント學會發行

東京市本郷區元町
振替口座東京 11325 番

協同文化建設を期待する

日米學生會議に於ける國際語討論

Diskuto pri la interncia lingvo en la Usona-Japana
Studenta Konferenco

(早大) 川 本 茂 雄

(商大) 木 村 典

(帝大) 久 保 貞 次 郎

1.

バルカンに、エチオピアに、スペインに、地球上到るところで、第二の世界大戰に脅かされてをる現代に、多くの國々にファシズムの暴威を見る今日に、社會的に未完成な青年學生が、二つの國から相集つて會議を開いて、果たして何等かの寄與を人類の文化になし得るであらうか？との疑問は屢々耳にすることである。しかし乍ら「眞の國民主義は、相互に浸さず浸さざれんがために、各自國民自主自立の尊重のために、國際主義の基調に立たねばならぬことは、今日健全なる國民の内心の確信となつて來た。しかるに、今日、祖國に對する愛が外國に對する攻撃憎惡によつてしか表現され得ないと考へて居るナチス的ファシズム的な陋劣な國民主義が、なほ、やゝもすれば不當な暴力を以つて人類數百千年の苦闘到達の文化を脅かさんとして居ることは、甚だ遺憾な恥べきことである。けれども、國際主義の原則は、嘗て苦難の中にも遂に吾人を封建主義の怯懦なる鎖國から解放したやうに、そはいままたこの現代の新しい獨占資本主義の排外鎖國をも遂に必ず打破し去るであらう。

就中、青年は、資本主義的獨占の内外華夷辨別的な鎖國やそれが不可避に招致せんとして居る戰爭の禍惡から何等の利益をもひき出し得るものではなく、却つてたゞさうした鎖國や戰爭から慘害危險を被るのみなのであるから、此等の恐るべき害惡に對して明朗な人類人民及び人間の進歩のために國際的協力のために、一般的哲學の中心となり根幹となり貯水池となること出来るのである。」(羽仁五郎、國際主義のために) この意味に於いて日米學生會議の努力は報いられるものがなければならない。

従つてアメリカの學生を迎へる我々日本の學生の態度は、幻想でない現在の日本の實體をハッキリ彼等に示すことであつた。どうして我々が、ラフカディオ・ハーンの、浮世繪と歌舞伎、お茶と活花、ゲーシャと富士ヤマ、だけの日本を示すことが出来やうか。そして彼等は、必らず、この國の人々がよりよい生活を期待して日々多くの困難に耐へて努力してをることを知るであらう。我々はアメリカの學生と眞に語ることによつて、曾てははち切れん許りの強健なデモクラシーを誇つた國の若人達も、我々と同じやうな希望と意識の下に生活してをることを發見する。こゝに兩國の、やがては世界の協同文化建設の基礎が横はる。

我々のこの期待は見事に報いられた。アメリカ側のハッキリした意識をもつた學生の方が、日本の不明瞭な學生よりも、我々にとつて、より近い友人であることを痛切に體驗した。我々の困難はそのまゝ彼等の困難であつたのである。

2.

二萬余圓の金を消費して開催された第三回日米學生會議の歴史をふりかへつて見よう。第一回は 1934 年アメリカから 80 余名の男女學生及び數名の教授を招待し、青山學院で 7 月 14 日——18 日開催。二萬數千圓を費した。第二回は昨年 45 名の日本男女學生が、早稻田の杉森孝次郎教授、石川靜子女史と共にアメリカに渡つて、オレゴン州ポートランド市のリード大學で、7 月 29 日——8 月 3 日行はれた。

第一回の分科會は、政治、經濟、國際問題、教育、宗教及び哲學であつた。國際語問題は全然プログラムの中には取り入れられず、「教育」の部會で、「如何にして日米兩國の親交を促進するか」の討議の際、國際會議に於ける 에스ペラント語の採用が久保君の一つの意見として云ひ出され、これに就いて反對、辯護討議がなされたのであるが、第 1 回のこの討議は反對論の空氣も可成強く、一般の雰圍氣はどちらつかずの態度であつた。(R. O. 1934. p. 232—233 參照) 第 2 回では之に参加した久保君が文化部の議長であり、青山學院の後藤潔君が有力な支持者であつた關係上、且日本側の代表はつくづく會議用語が英語である事に不公平を感じてをつた際とて、會議の一日、英語の問題が議題に上つた時、後藤君によつて口火が切られた後の討議の経過は(參照 R.O. 1936 p. 162) 活潑に日本側がアメリカ側を啓蒙するといつた調子であつた。そして、この事實は會議の公式報告書の中に記録された。しかし未だ最初からプログラムに掲げられてゐたものでなかつた。

3.

第 3 回の會議は、既に二回を経験し、文部省で積極的に支持しただけに、日本側の代表は關東、關西併せて 180 余名、學校數から云つても 30 をはるかに越えた。アメリカ側では 45 名。他に教授 1 名、女子監督 1 名。會場、早稻田大學。

今回は「國際語問題」は非常に重要な問題として、文化部では眞先きに公式プログラムの中に加へた。文化部の日本側學生男子 42 名、女子 24 名、計 66 名。アメリカ側、男子 6 名、女子 12 名、計 18 名。文化部アメリカ學生の大學所在地は、遠く New York, Chicago, から Minnesota 州、西部の Whashington, Oregon, California の諸州等であつた。

國際語問題は第 4 日目 8 月 6 日、午前 10 時——12 時、2 時間を費して熱心に討議された。(議長久保) 先づレポートを讀んでから討議にはいるのが、この會議の一般の方法である。そして國際語の grupo に屬する部員は佐々木福子(津田)、天野信男(青學)、川本茂雄(早大)、木村典(商大)の 4 人で、用意されたレポートは

1) General Survey of the Question (川本)

2) The Present State of the Esperantist-Movement (木村)

であつた。川本君は言語學、殊に古代英語が専攻ださうであるが、英、獨、佛を自由によく話し、ラテン語にも通曉してをる。木村君は同様に英、佛、獨、伊太利、ラテン語等を學んでをり、殊に發音學に特別の研究をしてをる。木村君は會議のために 에스ペラントの學習を會議の一ヶ月半程前から始めた。川本君はあとから聞いたことであつたが、エスぺラント語は、デモンストレーションをやるために三日前に會話を憶えたさうである。

先づ川本君が立つて、かねて用意のレポートを讀んで、國際語問題に關する社會的注意を喚起するに努め、言語學的考察よりも寧ろ國際人としての社會學的立場から國際語を考究することを力説した。即ち英語が世界的に普及されて居り、我々の討議の相手が英語を母國語とする

アメリカ人であるから、英語が自然に國際語になるであらうといふ意見は始めから豫期された。そこで冒頭現存の如何なる國語も政治的立場からして又言語學的立場からして國際語たり得ないことを述べ、イエスペルゼン博士がその“Growth and Structure of English”に於て世界に於ける英語の將來に大なる望みを抱いてゐることを言明しながら、しかもなほ Novial なる國際語を考案發表した事實を引用し、英語を以て將來の國際語と認め難い理由を前以て明瞭にして置いた。

川本君のレポートの後、木村君の「日本に於けるエスペラント運動の現状」が語られ、地方會の數、その連絡方法、同志の數、大會、講習會、ラヂオ講座、實用方面として、學術、教育、觀光、文學等に亘り、具體的な數字、名稱を擧げて敘述し、動かす事の出來ぬ勢力のある事實を出席者の前に示して、この方面に知識のないアメリカ人は勿論、多くの日本學生を驚かせた。

4.

それから質疑、討議に入つた。その内容摘記。(答は主として川本君があたつた)

アメリカ A 君——國際語は最近隆盛になつた國家主義と矛盾することはないか?

答——決してその憂はない。國際語は補助語であるから、母國語を排除しようといふものではない。それは他國語を話す人々との交通に用ひられるのである。外國とのコミュニケーションのためには、現在の諸外國語を學ぶのよりは國際語の方が國家主義に反することがむしろ少いわけである。

アメリカ B 君——先日、日本語を論じた場合に方言分裂のことが述べられたが、國際語にもその憂がありはしないか?

答——言語學の立場からすれば甚だ重要な疑問であるが、その虞はないと思ふ。過去の言語の歴史は全く分裂の歴史であつた。しかし最近我々は標準語への努力と傾向とを見てゐるではないか? 同時に國語を異にする人々の間に國際語が用ひられる場合を考へると、自分の言ふことを相手に了解して貰ふことを以て最大の目的とするのであるから、例へば發音上の習癖等も比較的早く除去されるものである。又、言語の統一を保つものは一つにそれを用ひる言語社會にある。我々の時代に於ては世界の交通、國際間の交渉が瀕繁になつたから、世界が國際語のために一個の言語社會を形造る状態に達してゐる。將來は益々さうなるであらう。こゝにも方言分裂を未然に防ぐ契機があると思ふ。

アメリカ C 嬢——國際語は商業、貿易のためにだけ用ひられるのか?

答——貿易は勿論、科學的論文にも又文藝にも用ひられる。既にエスペラント文學といふものが現れてゐる。

アメリカ D 君——文學の場合には幼時から覺え聯想の豊富な母國語で表現を試みるのが當然ではないか?

答——極端に云へばさうかも知れぬが、言語といふものは成人して後でも充分修得することが出来るものである。そして、既にエスペラント文學は存在してゐるのであつて、エスペラント文學も可能であることは最早事實である。

日本 E 君——現存の外國語にはその背景に國民文化といふものがある。國際語にはそれがないではないか?

久保君——しかしながら一方にあなたは國際文化といふものゝ存在を認められないか?

川本君——この日米學生會議は相互の理解を深めるために開かれたものである。我々は現段

階として英語を以て會議の公用語としてゐる。こゝに日本學生を代表して出席されてゐる方々は、日本の最善の English Speaking Students であると信ずる。しかも尙ほ英語を用ひる爲に我々が討論に於て如何に不利な立場にあるか？ この點を考へて載きたい。

日本 F 嬢——エスペラントには何か特別な色彩がありはしないか？

答——色彩があれば、それは國際色でせう。

F 嬢——例へば語彙等の點で……。

答——それはインド・ヨーロッパ、殊にラティン系統に主として基礎を置いてゐる。そのために日本人の立場からすれば、歐洲の言葉の教授のよい準備となる利益がある。

アメリカ G 君——ロマンス語のどれかを選んではどうか？

答——現存する國語は國際語として適しないことは劈頭で述べた。故に語彙の多くをロマンス語に採り、簡易化された文法組織を持つエスペラントの方が國際語として遙に適してゐると思ふ。

日本 H 君——東洋の言語が閑却されてゐるではないか？

答——世界のすべての國語を基礎にして語彙を作製することは、事實の問題として全然不可能である。又、東洋の言語がエスペラントに於て重んぜられてゐないことが、それ自身不利であるといふことはない。既に答へた事實のうちからこの事は明かであると思ふ。

F 嬢——例へば日本の中等學校でエスペラントを授業するとした時には、英語はどうなるか？ 時間の配當は？

答——例へば最初の 3 年間は現在の英語の時間をエスペラントに置換へ、あとの 2 年間英語をやれば、現在の 5 年間の英語よりもかへつて効果が擧る。

これに續いて久保君から、イギリスに於ける女學校のフランス語教授の例、アメリカ、コロンビア大學ソーンドイク博士の國際語教授に關する實驗例等の例證が行はれ、次に木村君がエス語で國語と國際語の關係及びエスペラント語の優秀なる點をエスペラント語で話し、久保君が之を英語に通譯。川本君、木村君がエスペラント會話をやつて見せる。

他二、三の質問があつて討論を終へ、最後に川本君が「こゝに出席されてゐる諸君はアメリカ側代表も日本側代表も、最も國際的關心を持つてゐる人々と信じ、又さう希ふ。故に國際語の將來も諸君の努力に俟つところが多い。將來諸君が國際語問題を眞面目に研究されることを切に希望する。」と結んだ。

討議の終了後、川本君や木村君のところへ日本の代表中、國際語問題に就いて啓蒙されるところが多かつた、自分もエスペラントを習ひたいと言つて來た人が可成多數あつた。アメリカ側でも Columbia 大學の McEvoyl 君の如き流暢な日本語で「アメリカに歸つたら、エスペラント話ませう」と洩らした。

5.

1936 年の日米學生會議は終つた。國際語の討議に就いても、第一回二回よりはるかに内容の整つた準備がなされ、時間も充分與へられ、且一般の雰囲気は全くエスペラント支持にまで進んで來た。しかし我々の闘ひは終つたのではない。第 4 回があり第 5 回がある。

今度の會議出席の大多數の日本側代表は討議に従つて理解して行くのに多大の困難を感じた。英語で聞くことが、そして話すことが如何に困難であるかを體驗した。そして第 1 回では、日本語を使用することが全く禁止されてをづたのが、第 2 回では默認となり、第 3 回で

は、議長が進んで、屢々日本語に通譯し、又日本語で意見を發表することをすすめ、そして又それがなされた點にまで進んで來たのである。來年の會議に對する希望として—アメリカ代表の言に「日本の代表をしてもつと日本語で話させること」が強く加へられてゐたことは見逃してならない事實だ。そして第 1 回からこの會議に携つて來た數名の委員の口から、「この第 3 回を終つてみて、つくづく感ずることは、言語的障害である」と語られたことは何を暗示してをるか。

エスペランティストの果たすべき任務は前途尙山と積まれ、行手一杯に擴がつてゐる。奮起しなければならない。(10, Septembro, 1936)

附記、この報告の(3)の後半(4)(討議の摘記)全部は川本氏によつて、其他は久保氏によつてつくられた。——編集部

Marta 語彙に關する二三の統計

KELKAJ STATISTIKOJ PRI MARTA

M. KIDOSAKI

は し が き

言語の教授上に於て、最も屢々使用される語と、殆んど使用されぬ語とを統計的に研究しその頻度性 (ofteco) より重要性 (graveco) を求め、合理化されたる基本語を選定せんとする試みは、外國語研究者間に喧傳せられてゐる問題である。英語に於ける有名な Thorndike や Horn の表、The American Council on Education の調査會等隨分大がかりなものがあつて、この方面に於て大なる貢獻をなしてゐる。

わがエスペラント界にても、語彙の ofteco を研究したものは時々見受けられる。例へば最近發行された Enciklopedio de Esperanto の第二卷 566 頁以下に Zamenhof の „Originala Verkaro,“ Privat の „Historio de Esperanto,“ Baghy の „Hura“ 等の中の接辭(接頭辭、接尾辭)や準接頭辭(前置詞等の轉用によるもの)の頻度性が出てゐるが、之を詳細に研究してみるのも可成り興味のある事である。

しかしこれ等は本辭以外の助辭や接辭であつて本辭を對象としたものは未だ發表されてゐない。僅に一二の Zamenhofaĵo の用語索引 (konkordanco) から計算してその ofteco を窺ひ知る程度に過ぎないのである。

私は以前から特に Zamenhof 譯の Marta を調べてゐるので、Marta に就いて興味ありそな統計を二三擧げてみることにした。勿論この統計は一つ一つあたつての數字であるが、見方の相異等から諸君の計算とは少し喰違ひがあるかも知れない。

因に Marta は小説として優れてゐるばかりでなく Zamenhof の模範的な譯になる點、日常生活に關する描寫が誠に豊富である點から、之をよく研究せらるれば文法の上に於て、又文章を作る上に於て必ずや裨益する所少なくなく、敢て精讀を推賞する次第である。

I. 總語數 (總回數)

Marta 全卷に使用されてゐる語の總數であるが、之は見方によつて色々に計算され得る。

a) 一つ一つ切り離して印刷されてゐる語を獨立した一語とみる最も普通の計算によれば……75,628 語。

b) 合成語を各要素に分解し、(例へば ne | mal | riča を三語とする) 文法的語尾以外の接辭、助辭も一語として計算すれば……約 9 萬語。

| | |
|---------------|----------|
| a) の方法による總數…… | 75,628 語 |
| 合成語 (加へる) | + 3,144 |
| 獨立の接字 (除く) | - 204 |
| 固有名詞 (除く) | - 1,167 |
| 記號その他 (除く) | - 200 |

c) の本辭と助辭の總數……77,201 語

c) 本辭及助辭を本位とし、接辭、固有名詞、外國語、單なる記號、接辭の獨立せるもの (eble の如き) を除いて計算すれば……77,201 語。

本文では c) の方法による 77,201 語を採つて本辭及助辭に就いて述べるが、この總語數は Marta 中使用されてゐる異つた語の回數の總計ともなる譯である。

II. 使用語數

ところで上の如く Marta 全卷には 77,201 語使はれてゐるが、これ等の語は總て別の語ではなく、この總語數の要素をなしてゐる異つた語は僅かに 1820 語に過ぎない。即 1820 種類の語が何回も同じ形で現れたり、又他の語と結合して合成語の形で現れたりしてゐるのである。

極端に言へばこの 1820 語さへ知つてゐれば Marta は辭書なしに讀むことが出来るし、又これだけのエス語を知つてゐれば Marta の様な小説が翻譯出来るといふ譯である。

III. 各品詞の ofteco

77,201 語がもともと 1820 語からできてゐるのであるから $77201 \div 1820 = \text{約 } 42$ となつて 1 語が平均 42 回宛出てくる勘定になる。勿論之は平均回數であつて實際では、或語は何千回も出てくるのに反し或る語は唯一回しか出て來ないといふ有様である。

概して云へば種類の多い本辭よりも、種類の少い助辭の方が何回も用ひられてゐる。即ち助辭は本辭に比べて語數は約 $\frac{1}{10}$ であり乍らその總回數の半分以上を占めてゐるのであつて、これにより助辭の重要性を十分に知ることが出来る。

本辭、助辭を各品詞に分けそれらの使用語數と使用回數との關係を示せば次の如くなる。語根が如何なる品詞に屬するかは大體 Plena Vortaro によつた。

| | | 總語數 | 總回數 | 平均回數 | | |
|----------------|--|-------|-------|--------------|-------|------|
| 總語數 1,820 語 | 本辭 1,673 語, 36,498 回 (92%) (47%) | 名詞 | 907 語 | 12,095 (15%) | 13 | 22 回 |
| | | 形容、副詞 | 225 " | 7,217 (9) | 32 | |
| | | 動詞 | 541 " | 17,186 (22) | 32 | |
| | | 冠詞 | 1 " | 6,151 (8) | 6,150 | 42 回 |
| | | 人稱代名詞 | 9 " | 7,525 (10) | 840 | |
| | 助辭 147 語, 40,703 回 (8%) (53%) | 數詞 | 12 " | 868 (2) | 70 | |
| | | 相關詞 | 38 " | 4,850 (6) | 130 | |
| | | 前置詞 | 33 " | 12,190 (16) | 370 | |
| | | 其の他 | 54 " | 9,119 (12) | 170 | |
| | | | | | 275 回 | |

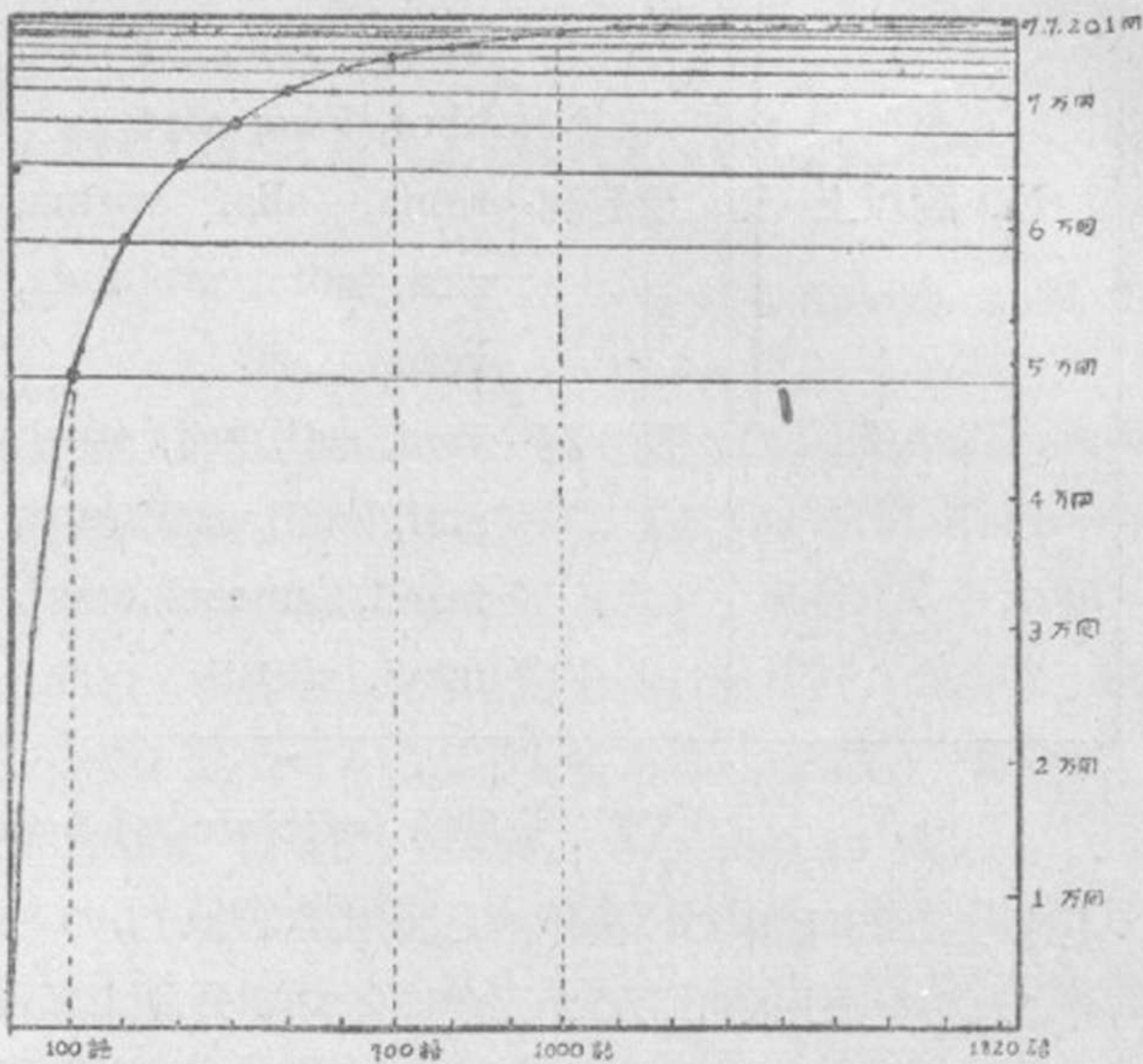
IV. Ofteco より見た Marta 語彙

括弧内は語数、その右は回数を示す。447 回を採つたのは、女主人公として最も屢用ひられる Marta の回数を一つの標準にしたのである。

| 回 数 | 名 詞 | 形容、副詞 | 動 詞 | 助 辭 | 計 | 果 計 | (%) |
|-----------|--------------|-------------|--------------|--------------|---------------|---------------|-------|
| 1,000 回以上 | | | (1) 1427 | (9) 20,891 | (10) 22,318 | | |
| 500 → 999 | (1) 531 | | | (10) 6,715 | (11) 7,246 | (21) 29,564 | (4%) |
| 447 → 499 | | | (2) 948 | (3) 1,424 | (5) 2,372 | (26) 31,936 | 56% |
| 200 → 446 | (8) 2,130 | (4) 1,152 | (9) 2,583 | (17) 4,782 | (38) 10,647 | (64) 42,583 | |
| 150 → 199 | (4) 645 | (8) 1,439 | (8) 1,391 | (12) 2,146 | (32) 5,621 | (96) 48,204 | (4%) |
| 100 → 149 | (9) 1,051 | (7) 792 | (13) 1,539 | (16) 1,938 | (45) 5,320 | (41) 53,524 | 14% |
| 51 → 99 | (27) 1,809 | (23) 1,670 | (51) 3,717 | (22) 1,566 | (123) 8,762 | (264) 62,286 | (60%) |
| 11 → 50 | (174) 3,933 | (80) 1,767 | (176) 4,486 | (36) 1,136 | (466) 11,322 | (730) 73,608 | 29% |
| 3 → 10 | (274) 1,459 | (55) 329 | (165) 939 | (19) 102 | (513) 2,829 | (1243) 76,437 | |
| 2 | (127) 254 | (20) 40 | (40) 80 | | (187) 374 | (1430) 76,811 | (32%) |
| 1 | (283) 283 | (28) 28 | (76) 76 | (3) 3 | (390) 390 | (1820) 77,201 | 1% |
| | (907) 12,095 | (225) 7,217 | (541) 17,186 | (147) 40,703 | (1820) 77,201 | | |

上の関係を圖示すれば右圖の如くになる。

横に語数を（右へ順次回数の少い語を加へる）縦に回数（多い回数より順次上へ回数を加へる）をとつた結果である。拋物線の上昇の工合、100 語宛の回数を示す横線と横線の間隔が上に行く程狭りつつあるところに注意せられよ。



V. 100 回以上の ofteco を有する語一覽

| 回 數 | 本 辭 | 助 辭 |
|----------|---|--|
| 5000 回以上 | | la |
| 2000 回以上 | | de, ŝi, kaj |
| 1500 回以上 | | mi, en |
| 1000 回以上 | 動詞……esti | al, kiu, ne |
| 500 回以上 | 名詞…viro | vi, kun, si, el, tiu, sur, per, por, ke, li |
| 300回 以上 | 名 詞…sinjoro, mano, okulo 形容詞…granda 動 詞…diri, povi, labori, iri, havi, rigardi | da, sed, ĝi, tio, antaŭ, pli, ili, sen, unu |
| 200 回以上 | 名 詞…homo, vizaĝo, momento, infano, kapo 形容詞…bona, juna, forta 動 詞…vidi, fari, pensi, levi, scii | kiel, ĉi, du, pri, post, kio, nun, for, inter, tre, jam |
| 150 回以上 | 名 詞…patro, tago, tempo, vorto 形容詞…tuta, kelka, rapida, plena, bela, nova, multa, longa 動 詞…devi, paroli, doni, vivi, ridi, stari, voli, senti | tiel, ĉe, aŭ, oni, ni, ĉu, ĉiu, kiam, plej, se, ankoraŭ, tamen |

| | | | | |
|---------|---|--|---|---|
| 100 回以上 | { | 名 詞... <i>ĉambro, voĉo, pordo,</i> <i>koro, fojo, strato,</i> <i>libro, loko, edzo</i> | { | <i>nur, ia, iom, eĉ, tie, ankaŭ,</i> <i>mem, tia, ĉar, ol, nenio,</i> <i>ĉirkaŭ' dek, tra, kia, do.</i> |
| | | 形容詞... <i>sama, alia, varma,</i> <i>riĉa, laŭta, profunda,</i> <i>vera</i> | | |
| | | 動 詞... <i>veni, sidi, kii, trovi,</i> <i>ami, lumi, vesti, kuri,</i> <i>fermi, komenci, aperi,</i> <i>movi, silenti</i> | | |

VI. 公用性 (oficialeco) からみた Marta 語彙

上述の 1820 語中には公用語と公用語でないものとが含まれてゐる。

今これらを公用語であるか否かによつて分類してみると次の如くなる。但し公用語は *Universala Vortaro* 中のものと、第 1 回から第 6 回迄のその補遺とに區別した。

| | | 公 用 語 | | | 未公 用 語 | 總數 |
|----------|------------|-------|-----|-----|-----------|------|
| | | U. V. | 1—3 | 4—6 | | |
| 本 辭 | 名 詞..... | 676 | 191 | 8 | 32 | 907 |
| | 形容、副詞..... | 182 | 36 | 3 | 4 | 225 |
| | 動 詞..... | 490 | 45 | 2 | 4 | 541 |
| | 助 辭..... | 142 | 1 | 0 | 4 | 147 |
| 總 數..... | | 1490 | 273 | 13 | 44 | 1820 |
| % | | 81% | 15% | 1% | 3% | |

因に U. V. 總語數の中 58 %が Marta に使用せられ、その U. V. 中の語だけで Marta 總回數の約 98 %を占めてゐることは注目に値する。

む す び

以上主として ofteco の問題から Marta 語彙を観察したのであつて、エスペラント一般に就いて述べたのではない。しかしこの Marta の ofteco を通じてエスペラント語彙の graveco を幾分なりとも窺ひ知ることが出来て何等かの示唆を受けらるれば幸である。

今後いろいろな人々の手によつて多方面にわたる材料からもつと合理的な結果が得られるであらうが、その比率に於て相當の變化はあつても、根本的に異なる現象はまづ見出されないことと思ふ。
(1936, 7, 11)

日 本 書 紀

第 二 卷 ま も な く 出 づ !!

日 本 書 紀 (第一卷)

1.20 〒 4

日 本 エ ス ペ ラ ン ト 學 會 發 行

KROITA, E J Vortaro, 1906 の原本

KAWASAKI-N.

1. Titolpaĝo にも kovrilo にも ESPERANTO-JAPANA VORTARO REDAKTITA DE DRO. KROITA, DRO. ASADA, KAJ T. ABIKO, KONSILANTOJ DE JAPANA ESPERANTISTA ASOCIO. PUBLIGITA DE JURAKŜA TOKIO 1906a とあり、奥付にも日本語での titolo がない。明治三十九年十月廿五日印刷 明治三十九年十月廿八日發行、印刷所 株式會社秀英舎第一工場。それから定價金五拾錢と紫のゴム印が押してある。假綴、一段組。9×15cm. [ii]+ii+ix+156+[1]. 發行所 協會。發賣所 有樂社。句讀點わ,・式。

2. 小序「近時我が國に於てはエスペラント研究者次第に多く我が協會設立以來未だ數月ならざるに早くもエスペラント語學校の設立を見るに至り、エスペラント辭書の編纂は研究者の切に要求する處となれり、これ我が協會が此の小冊子を編纂して先づ會員諸君に頒つことゝしたる所以なり、素より急速の間に編纂したるを以て不完全なる點多かるべく誤解の個所またなきにしもあらずといへども是等は他日再版の機を俟つて訂正増補し、版を重ねるに従つて完全なるに至らしむべきを以て、茲に豫め會員諸君及び識者の是正を乞はんとするものなり。本書は Review of Reviews 社の發行に係る Esperanto-English Dictionary 及び Zamenhof 博士の Fundamento de Esperanto を基として編纂したるが、元來辭書は紙數少くして携帯に便なるを優れるものとなすを以て、編者は特に此方面に注意を拂ひたり、而してエスペラントは人の知る如く少數の語根に接頭字、接尾字を加へ又語尾の變化及び合成法等に依りて無數の言語を作成し得るを以て、本書收むる處の字數甚だ少きが如くなるも、尙且つ作文會話に何等の差支なきを信ず。明治三十九年十月 日本エスペラント協會幹事」

3. Review of Reviews 社發行の E A Vortaro といへば Motteau 以外にない。初版わ 1904 年で、再版わ 1906 年。再版わかなり増補されている。黑板も初版を使つたのか、再版を使つたのか？ 再版の出版月日がいま私にわわかつていない。Motteau の死 (Enciklopedio de Esp. によると 3 Marto 1906) 後にでたことわ再版序文でたしかだが、黑板の編輯のときすでに日本に来ていたかどうかいま私にわわかつていない。黑板、M 初版、M 再版の見出し語を比較してみると、黑板中にあるものわわずか 2 を除いて全部 M 初版に存在し、M 初版にあつて黑板にないものがわわずか 39 で、すなわち兩者わほとんど一致するが、M 再版に増補された vortoj (例: aberacio) わ黑板にあらわれていない。よつて私わ黑板が使つた Motteau わ初版であると考證する。

4. M 初版にあつて黑板にないもの：

apogeo, Arguso, arpeĝo, Aŭroro, azeno, banto, bileto, brano, broso, dativo, egoisto, epiteto, etato, fanatika, fosforo, fosto, fringelo, grumo, halo, hamstro, horoskopo, Ĥarono, kamero, kamerlingo, kaporo, lesivo, levido, marcipano, markoto, melopeo, nadiro, opinii, paletro, rezulto, turismo, uro, vakcinio, veluro. これをずつとみると azeno, opinii なんかわ senatente に落されたものらしいが、難しい語の多いのに注意せねばならないと思う。

5. M 初版になくて黑板にあるもの（もちろん Fundamento にもない）:

birodo 天鷲（ビロード）、diplomatiko 古文書學。面白いことわ M 初版にある veluro がないこと、黑板の専攻課目が古文書學であること。

6. 誤植わ猛烈にある。Alfabeta ordo もかなりめちやだ。Komika なことが起つている。

bilano, 出入帳, 損益勘定書.

bilardo, 手形; bank-o, 銀行手形.

bindi, 製本スル.

bankbilardo が銀行手形とオカシナことになつてゐるが、M 初版にわ bilardo の上に bileto があり、bankbileto であるべきものなのだ。

fianĉo, 許嫁; -ino, 許嫁（女）.

flasko, フラスコ（瓶）.

fibro, 纖維.

これわ flasko であるべきもの。

Titolpaĝo と表紙にわ publiĝita となつてゐるが、本文中でわ publikigi である。

7. 譯語の不十分なのが多くある。Esp. の意味を知らず？ 英語を譯したためトンダ誤におちいつたものがある。すなわち英語でわ 1, 2 の意味があり、Esp. でわ 1 の意味なのに 2 の意味として日本語譯を與えていることである。flegmo わ phlegma となつており、黑板わ（痰）としているが、英語 phlegma にわ（痰）と（冷淡）の 2 つがあり、Esp. わ（冷淡）の意味しかもつていないのである。類例：

[M] genoto, genet (little animal of weasel kind), ratoon. [黒] 西班牙産ノ小馬.

[正] 麝香猫.

[M] hortensio, hortensia. [黒] 園圃. [正] アジサイ.

[M] instituto, institute. [黒] 掟. [正] 學會.

[M] investituro, investiture. [黒] 被覆. [正] 敘任.

[M] kapoto, cape. [黒] 岬, 崎. [正] 頭巾附外套.

[M] ŝindo, shingle. [黒] 砂礫. [正] コケラ.

[M] oksalo, sorrel. [黒] okzalo, 紅褐色. [正] スカンボ.

最後の例注意。U V わ okzalo である。

8. 見出し語のみあり、譯語のないもの: loĵto, meĉo.

9. 見出し語の數。固有名詞もあり、l', k. t. p. などもある。U V の radikoj わ 2629 (Dmitriev による) だから、黑板のほうがすこし多い。

| | | | | | | | |
|--------|--------|--------|--------|---------|--------|--------|--------|
| A 250, | B 164, | C 49, | Ĉ 45, | D 151, | E 129, | F 203, | G 118, |
| Ĝ 15, | H 91, | Ĥ 8, | I 102, | J 30, | Ĵ 7, | K 441, | L 128, |
| M 208, | N 77, | O 85, | P 350, | R 143, | S 281, | Ŝ 54, | T 171, |
| U 30, | Ŭ 0, | V 114, | Z 10. | 計 3654. | | | |

10. 附記。使つた本。黑板のわ オカ イチロウさんに借りた。M 再版わ Butler から來た。M 初版わ JEI にあるが、自分で欲しいと思つてゐたとき、大阪の古い同志辻利助さんの遺品がある會合で賣りにでた。私わそのときおくれていつて、他の書わほとんど賣れてしまつてゐたが、私の探してゐたこの M 初版が残つてゐた。15 セン。しめた。(31 aŭg. 1936)

動詞 FARI の用法

(7)

K. OSSAKA.

§ 5 (a). „Fari“ en Verbaĵ Frazeroj (動詞成句): *Perifraza „fari“*.

Kiel mi jam diris en § 1, „fari“ formas kun sia komplemento verban frazeron, kiu donas ĝenerale ideon esprimeblan per unu simpla verbo:

| | | | |
|-----------------------|-----|-------------------------|-------|
| Fari viziton = viziti | 訪ねる | Fari esploron = esplori | 研究する |
| Fari salton = salti | 跳ぶ | Fari truon = trui | 孔をあける |

Tia frazerkonstruo estas uzata precipe kiam ni volas

- 1) montri pere de ĝia komplemento la nombron de la farataj aferoj, aŭ
- 2) aldoni al tiu ĉi modifantan sencon pere de la adjektivo, almetata al la komplemento, kion simpla verbo ne povas oportune fari. Krom tio la uzo de tia frazero donus iafoje variecon en la parolo.

| | | | |
|---|------------------------|--------|------------|
| { | Salto | 跳ぶ | { (數を示し得る) |
| { | Fari (unu) salton | 一と跳び跳ぶ | |
| { | Fari (kelkajn) saltojn | いく度も跳ぶ | |

Fari (unu) truon—(multajn) truojn—grandan truon—kvadratan truon……

孔を一つあける——澤山あける——大きな孔を明ける——四角な孔をあける……

Rimarko (1). Simpla verbo transitiva nature povas akompani sian objekton en la formo de rekta komplemento, dum ĉe verba frazero kun „fari“, kiu mem havas jam sian rektan komplementon, la objekto senca estas ofte forlasata:

| | | |
|---|---------------------------------------|---------------------------|
| { | Mi <i>aĉetis</i> libron, tablon, ktp. | 何々を買った (買った物を明示する場合) |
| { | Mi <i>faris</i> aĉetojn. | 買物をした (と云ふだけで何を買ったと云はぬ場合) |

En la okazo, kiam al verba konstruo de „fari“ ni volas tamen almeti objekton, t. e. komplementon, tiam ni estas devigataj uzi ne rektan, sed peran (nerekta) komplementon kun prepozicio:

| | | |
|---|---|--------------------------------|
| { | Ŝi <i>makulis</i> la tukon. | 布を汚した (と直接目的語を付け得る) |
| { | Ŝi <i>faris</i> makulon <i>sur</i> la tuko. | 布に汚みをつけた (は前置詞 <i>sur</i> を介入) |
| { | Oni <i>truis</i> la muron. | { 壁に孔をあけた |
| { | Oni <i>faris</i> truon <i>en</i> la muro. | |

Rimarko (2). Kiel ni jam klarigis en § 4 (d) „fari“ povas esti uzata kiel „pro-verbo“ (anstataŭverbo), kaj ĝi do iafoje anstataŭas la verbon en verba konstruo de samorigina komplemento. Ekzemple:

Fari foson = fosi foson. 穴を堀る。

Tiele analogie oni ankaŭ diras:

| | | |
|---|---|------------------------|
| { | Faru do rapide ŝian <i>tombon</i> . | (H 143) 急いであの娘の墓を堀れ |
| { | Por kia homo vi fosas la <i>tombon</i> ? | (H 140) 堀つてゐる墓はいかなる人のだ |

Rimarko (3). Pro tio, ke tiu ĉi kategorio de verbaĵ frazeroj kun „fari“ estas ekvivalenta

al simplaj verboj, oni povus nomi tiun ĉi uzon „perifraza“. Ekzemple „fari rondiron“ signifas nenion alian ol tion esprimatan per simpla verbo „rondiri“.

Rimarko (4). Kiel jam menciite en §1, en angla lingvo oni uzas jen *to do*, jen *to make* por formi verban frazeron. Ekzemple:

To do reverence=*to make* an obeisance (*aŭ* a reverence)=**fari riverencon**, riverenci, t.e. oni uzas *to do* kiam la komplementa substantivo estas rigardata kiel agado mem kaj *to make*, kiam ĝi estas rigardata kiel la rezultato de la ago (subkonkreta).

§5 (b). Frazero kun „fari“ en netransitiva senco=„aranĝi“.

| | | | | | | |
|------|---|------------------------|---|------------------------------|---|----------------------------|
| Fari | { | veturon =veturi | { | ĉirkaŭiron =ĉirkaŭiri | { | forkuron =forkuri |
| | | vojaĝon =vojaĝi | | promenadon =promeni | | paradon =paradi |
| | | vojiron =vojiri | | ekskurson =ekskursi | | procesion =procesii |

Mi en la somero **faros veturon**. (F II 139/-14). 夏になつたら旅行をするつもり

La birdo kantis pri la bela **vojaĝo**, kiun ĝi per siajflugiloj povus **fari** alte en la aero. (F I 96/9); ankaŭ vd: F III 132/28) 空高く飛ぶ美しい旅の歌を歌つた

Ni **faris vojaĝon** per ĉevaloj. (F K 69/1). 騎馬旅行をした

Li aŭdos, kiel malproksiman **vojiron** ŝi **faris** pro li. (F II 64/29). 自分故に彼女が遙々と旅路を重ねた一部始終を語つて聞されることにならう

Ĉu ili povas **fari** tian grandan **vojiron**? (F I 19/28) そんな長の道中が出来やうか

Mi pro singardeco **faros** unu fojon **ĉirkaŭiron** ĉirkaŭ la domo, antaŭ ol mi iras dormi. (B V 47/-7). 寝る前に念の爲め一度家のまわりを見廻はらう

Mi **faris** malgradan **promenadon**. (Rz. 24/17; ank. vd. F I 74/19) 一寸散歩して来た

Ili **faris** **ekskurson** ekster la urbon. (F II 87/21; ank. vd. G D 42/6) 郊外へ遠足

Saul iris batali kontraŭ la Filiŝtoj kaj estis la unua, kiu **faris forkuron**. (Rn 28/-2). サウルはペリシテの軍に向つたが眞つ先に逃げ出した

Kaj la soldatoj **faris paradon**. (F II 143/11). 分列式を行つた

Oni **faris** edziĝofestan **procesion** returne al la palaco. (F I 114/-1). 御成婚祝賀行列をして宮殿へ引きかへした

| | | | | | |
|------|---|----------------------|------|---|--|
| Fari | { | paŝon =paŝi | Fari | { | transkapiĝon =salti transkapiĝe |
| | | salton =salti | | | movon =moviĝi, sin movi |

Ŝi **faris** kelke da **paŝoj** kaj sidiĝis sur la kanapo apud Marta. (M 177/2). 數歩歩いてマルタのそばに腰をかけた

Sed apenaŭ ni **faris** kelkajn dekojn da **paŝoj**, ni haltis, rigiditaj de teruro. (F K 141/-2). 數十歩行くか行かぬうちに吾々はハツとして立ちすくんだ

Vi timas, ke ni estos ne sufiĉe saĝaj kaj **faros** facilanimajn **paŝojn**. (O V 338/13). 私共は知恵が足りなくてうかうかしたことをするだろうと皆様は心配して居られる

En tro granda sed ne prudenta fervoro li **faris** falsan **paŝon**. (O V 311/-6). あまり熱心すぎるのが常識が欠けた熱心のためにへまをやつた(どちをふんだ)

Sed mi devas **fari** tiun ĉi **paŝon**. (B V 50/14; ank. vd. I T 39/-8). どうしてもこうせねば(着手せねば、踏み出さねば)ならぬのだ

Sed la maljunulo jam bedaŭras la trorapidan **paŝon**, kiun li tamen, ŝajnas al mi, ne

mem **faris**. (Rt 41/3). 自ら進んでやつたのではないらしいが、あまり性急に手を下したのを老人はもう後悔してゐる

Karen ne povis sin deteni, por ne **fari** kelke da **dancpaŝoj**. (F II 100/6). ダンスのステップをふむのを禁じ得なかつた

Oni ankau vidu: M 7/23; 62/4; 62/16; 124/2; 177/2; ktp.

Tial, rapide decidite, mi **faras salton**—kaj mi troviĝas transe. (Rt 20/1). 思ひ切つてとんだ(一躍した)——すると向ふ側にとび越えてゐた (*ank. vd.* F I 80/26)

Pro raviteco li **faris** transkapan **salton** kaj ĉiuj laŭte aplaŭdis al li. (F I 47/9). 感極まつて彼はトンボ返りをうつた、すると皆が彼に大喝采を送つた

[註] *salto* transkapiĝe とも云ふ (*vd.* F I 47/22; F II 33/11).

Li **faris transkapiĝon** (F I 99/8)=*faris* transkapan *salton*.

La fiŝo ĵetadis sin tien kaj reen kaj **faradis** la plej terurajn **movojn**. (F I 100/-2). 魚はあちらへこちらへとあばれまわつて恐しくジタバタした

[Tradukaj Ekzercoj I. 解]

1. Faru fajron kaj preparu (aŭ infuzu) teon.
2. Li *faris* al si dometon en la pinarbaro kaj loĝis (aŭ vivis) tie ĝis la morto.
3. Dio *faris* (aŭ kreis) homon laŭ sia bildo.
4. Ĉu vi *faris* al vi la ŝuojn per mendo?—Jes, ili estas faritaj laŭ la mezuro.
5. Japanoj *faras* diversajn objektojn el papero.
6. Pli bone laboru, ol versaĉi (aŭ pli bone sur la kampo labori, ol hejme versojn nur *fari*).
7. Unu pli *faras* dek.
8. Al vi mi *faros* eŭropajn vestojn.
9. Kiom la sumo *faras* (aŭ kiom estas sume)?—La sumo (aŭ tuto) *faras* cent *spes-milojn* (aŭ estas cent *spesmiloj*).
10. Okazo *faras* ŝteliston.
11. La infano sin amuzis *farante* sapajn vezikojn.
12. Oni *faras* (aŭ bakas) brikojn el argilo.
13. Mi *retiriĝis* en mian ĉambron kaj *faris* al mi oportune.
14. Kaj kion, diru, ho diin', mi *faris*,
Ke spite de korŝira preĝo mia
Favoron ĉiam al mi vi *avaris*?
15. Mi *faris* ĉion, kion mi povis (aŭ kion miaj fortoj permesis).
16. Mi *faris* ĉion, kion mi devis *fari*.
17. Ĉar mi havas ankoraŭ multe (aŭ multajn aferojn) por *fari*, mi kredeble ne povos vin vidi antaŭ mia forveturo.
18. Ne faru al alia (tion), kion vi ne volas ke oni al vi faru.
19. Mi nur *faris*, kion mi devis.
20. La ondo *faris* grandan fendon en la flanko kaj la ŝipo iris al la fundo de la maro.

21. Ili faris malsaĝaĵon la plej grandan en la mondo.
22. Vi farus pli bone, ĵetante (aŭ pli bone vi ĵetus) perlojn antaŭ porkojn, ol doni ĝin al li.
23. Kiu faris la unuan lokomotivon?
24. Estas hontinde, ke la plimulto faras perfortaĵon kontraŭ la malplimulto.
25. Ĉiuj miris, ke tia diablaĵo (aŭ brutajo, aŭ skandalo) estis farata dum la hela tago, kaj en la mezo mem de la ĉefurbo.
26. Venu ĉi tien! ne timu, ĉar mi faros al vi nenion.
27. Jurnalaj raportistoj ofte faras el muŝo elefanton (aŭ el pingletto bastonegon).
28. Malfeliĉoj faros el vi juvelon (aŭ grandan homon).
29. Manko de dormo faros al vi malbone.
30. La trankvila dormado faris bone al la malsanulo.
31. Kiel (aŭ kion) ni faru kun tiu ĉi kaptito?
32. Oni nenion povas fari kun tia malsaĝulo.
33. Kion ni povas fari kontraŭ tia lerta (aŭ ruza) parolisto?
34. Ili faris (aŭ agis) kun mi kiel (se) kun infaneto.
35. Tiu, kiu diradas, ke li sin mortigos, neniam tion faras.
36. Li faras nek bonon nek malbonon.
37. Li faras ĉion malbontone.
38. Vi ja povis fari tion, se vi nur volis.
39. La unua afero, kiun vi devas fari post la fino de la kurso, estas tio, ke vi aliĝu al J E I por vin perfektigi en Esp. per la R. O.
40. Li faris agon, kiu ne konvenas al japano.

山の王者

エスペラント譯泰西文學鑑賞・3

萬澤まき子

先日、或るアメリカ映畫で、おはねなアメリカ娘がギリシヤのナキソス島を訪れ、山賊が出るといふ噂を面白がりながら、唯一の交通機關である驢馬に乗つて興ずる場面を見た。私はその時、ふと、以前讀んだ „La Reĝo de la Montoj“ を思ひ出し、アメリカ人のみた現代ギリシヤも、80年前フランスの作家 About がみたギリシヤと大差ないことを感じて微笑した。同時に „La Reĝo de la Montoj“ の面白さをも新しく思出したので今度はこれを取扱つてみることにした。

„La Reĝo de la Montoj“ は實に面白い。電車の中などでは讀まない方がいいかも知れない。絶えずこみあげて来る笑ひをもてあますに違ひないから。

原作者 Edmond About は 1851 年に „近代のギリシヤ“ を著はしてから 30 歳の若さで一躍フランス文壇の前線に躍り出た人で、1856 年に „La Reĝo de la Montoj“ を發表する

や、あらゆる國々で嵐の様な歓迎を受け、又一方、ギリシャ人をカンカンに怒らせてしまつた。その後、作者が再びギリシャを訪れた時、その國民達に石をもつて迎へられたといふ。ギリシャ人は彼を „惡意ある誣告者“ だと信じたがヴォルテール流の彼の皮肉は決して彼等にだけ向けられたのではなく、どの國民に對しても同じ様に鋭く注がれてゐるのである。

ギリシャ人に侮辱を感じさせたのは作者だけでなく挿繪を書いた Gustave Dore も同罪だといはれる。フンダンに挿入してある彼の繪に、登場人物の性格や風貌があまりにも躍如としてゐるので心の底から嬉しくなつてしまふ。

翻譯者 Gaston Mock は 1859 年の生れで早くから平和運動に身を投じてゐたが國際語問題に興味を持ち、1889 年エスペラント運動に参加した。フランスに於ける第三人目のエスペランチストである。著書には „Pri la Elparolado de Esp.“ (發音研究) があり、翻譯には „La Rego de la Montoj“ の外に Tristan Beruard の „Angla Lingvo sen Profesoro“ (學會發行の „代理通譯“ はこの書を對譯にしたもの) がある。

* * * *

1856 年 7 月 3 日の朝早く、私 (即ち著者 Edmond About) は奇妙なドイツ青年の訪門を受けた。善良な瞳を持つ風變りな客は一應私の著書 „近代のギリシャ“ を賞讃した上で、彼が自ら體驗したギリシャでの生活をいとも飄々たる口調で話しはじめた。その話の奇怪さ面白さに私は少なからず驚かされてしまつた。語り終るや、再び飄然とその青年が行先も告げず姿を消した後、私は速記して置いた青年の物語を二部清書し、一部をアテネにゐる私の知人 (勿論ギリシャ人) に送つて話の眞疑を確めることにした。次はその青年 Hermann Schuitz 氏の話である。

*

貧しい片田舎の宿屋の伴であり植物學徒である私はハンプルグの植物園からギリシャへ植物採集の爲に派遣された。人の世話によつて私が巢をかまへた處はアテネ市の一隅にある Kristodulo といふ菓子屋で、そこには主人夫婦と伴 Dimitri の外に私を加へて四人の下宿人が居た。即ち、お喋り屋で自稱慈善家なるフランス人の考古學者先生、マルタ島生れの恐るべき胃の腑の所有者 Giacomo、若いアメリカ人 Lobster とそれに私。私はこの同宿人達に特別親しみも興味が持たなかつたが、一週間に三、四回も私達と晩餐を共にしに来るアメリカ青年の叔父 John Harris に對しては不思議にも非常な親愛を感じたものである。多分、彼の奇妙な、私とまるで反對な性格が私の興味をひいたのであらう。

アテネに於ける私の研究は少しづつ進行した。私は毎日野原へ植物採集に出たが決して遠くへは行かなかつた。當時ギリシャには山賊共が跳梁して旅行者に掠奪や暴行を働いてゐたので私達はアテネの市街を一步も出ることが出来なかつた。就中 „山の王者“ と稱される Haği-Stavros は數々の勇敢な掠奪行爲の故に英雄としての名聲をはせ、外人達の憎惡と同國人達の密かな賞讃とを勝ち得た上、人の懷中から掻き集めた財力でもつてギリシャの經濟界に君臨してゐる。彼の父性愛は彼の蓄財癖に一層の拍車をかけたらしく、彼は歐洲の財界を巡歴したり、掠奪の株式化を企てたりした。彼の理想は最愛の獨り娘を女王の如き持慘金と共に外國の王子に嫁がせることであるそうだ。

Kristodulo の家を毎日曜訪れて私達と一日を共にする少女が居る。齒と髮毛の外は全く取得のない恐しく無骨な醜い女で、凡そギリシャ型といふものから縁が遠い。大佐の娘だといふこ

とであつたがその服飾の贅を凝らしてあることは驚嘆に値した。然しその華麗な装飾品が彼女の醜さを一層效果的にしたのは氣の毒な限りであつた。その少女 Fotini が美男のアメリカ人 John Harris に戀をしてしまつた。彼女は朝から晩まで惱ましげな眼で無愛想な John Harris を眺め続け、下宿の伴 Dimitri は明らかな嫉妬でもつて John Harris をみ、Fotini の醜い顔を惚々とこれも一日中眺めてゐる。この三角關係は冷靜な傍觀者である私を非常に面白がらせた。

4 月 28 日の新聞は大々的に „山の王者“ Haği-Stavros の敗北を報じて私達外人を喜ばせた。30 日の早朝、私は早速採集胴亂を肩に家を出てバルニス山を目指した。自然尊重のギリシャに於ては大河が國道であり小川が縣道とみなされ、雷が技師で雨が道路工事係であるらしい。然しこの道路工事係は何處の國のそれにも氣まぐれだとみえて私は遂にバルニス山へ行く道を失つてしまつた。幸ひ、暫くして後下宿屋の伴 Dimitri が二人の英國婦人の伴をして來るのに逢ひその道連れにしてもらつた。Simons 夫人といふこの老英國婦人は傲慢さに於ても何に於ても典型的な英國婦人で、その無格好な姿態や醜い顔は私の隣惑をすら買つた程であつたが、その娘 Mary-Ann の美しさは冷靜な科學者である私の心を奪ひ去つてしまつた。美の標準といふものは時代と共に變遷するものであるから、ミロのアフロデイトが現代に於ても美人であるとはいへない様に、我が Mary-Ann も二千年前の時代の美人には餘程縁遠い。彼女の鼻ははつきりと天を臨んでゐるし、頬の靨は對稱の法則を無視して片頬にだけしか姿をみせていないが、私の審美眼は彼女こそ現代隨一の美人だと斷定し、私の心は彼女の銀鈴の如き聲と輝かしい美貌とに魅し去られたのである。

Simons 夫人は烈しく空腹を訴へたが行けども行けども荒れ果てゝ人の影も見えぬ村ばかり。なだめすかしてやつとカスチャの修道士の小屋へたどりついた。然し私達は其處で朝食どころか實に意外な報らせを、バルニス山が一昨日から山賊に占領されてゐるといふことを、25 才の „bona maljunulo“ (ギリシャに於ける修道士の稱) から受けた。驚愕した Dimitri は朝食せずには動かぬと頑ばる老英國婦人を引づつて山をかけ下りたが間もなく私達は路傍の叢から顔を出してゐる數個の銃口に包圍されてしまつた。姿を現した鐵砲の主達の汚なさはお話にならない。動物には保護色といふものがあるがこれも確かにその一種であらう。彼等の着物はギリシャの土の色と區別が出来ない程深刻に汚してあつた。彼等は私達のポケットの全財産を吐き出させた上、私の時計や Mary-Ann のお化粧道具まで強奪した。Dimitri は吐出した中からアテネへ歸る旅費として銀貨を一枚與へられて放免されることになつた。私達もこれ以上奪はれる何物も持たないので Dimitri と共にいさぎよく立去らうとしたが、その時私達は私達の大きな不幸に氣付かねばならなかつた。私達は人質として身代金が來るまで幽閉されるのである。

小さな追剥隊に守られて險しい道を永いこと行進させられ、漸く 11 時頃一行は „山の王者“ の陣營に到着した。陣營とはいへそこには家も天幕もない。たゞ 800 平方米ばかりの平地である。30 人程の善良なる強盜達は私達をとりまいて物珍らしげに評定をはじめ、初めてみる“歐洲の着物” 珍らしさに私達の周圍をぐるぐる廻つたり、果ては私の外套を撫でまわしたりしては自分達の知識慾を満足させたのであつたが私達にとつてそれは迷惑至極であつた。處がその中私達は強盜よりも手におえぬ一隊に襲撃されはじめた。足の早い氣まぐれなこの小動物の一隊は踝から膝へと進軍して物凄しい總攻撃を開始した。たまりかねた私はこの小動物の持主達から離れたいと思ひ „山の王者“ との會見を要求した。

„山の王者“ は樅の木の下敷物の上に四人の書記と二人の召使に圍まれて威風堂々と坐つ

てゐる。そこが彼の事務室である。„山の王者“は矍鑠たる立派な老人であつた。彼は私達を認めるや少しの皮肉も含まない眞面目さで „よくいらつしやいました“ と私達を歓迎してすぐ事務の續きをはじめた。彼の口述を書記が書取つてゐる。最初は彼の最愛の娘に送る手紙、次はロンドンの Barley 銀行宛に自分の預金の運用を委託する手紙、最後に „山の王者“の國立會社事業報告。Haği-Stavros は堂々とこの三つの手紙を私達の面前で書取らせたが、その第二の手紙は私に實に面白いことを教へてくれた。Barley 銀行といふのは Mary-Ann の父上が株主をしてゐる銀行だからである。手紙がすむと部下の頭立つた者からその日の行動と收入の報告を聞き、最後に私達に對する訊問が開始された。Simons 夫人は Haği の紳士的な誘導訊問につられて、如何に彼女が富裕な上流の英國婦人であるかを思はずも力説してしまつた。その結果は彼女等の身分と誇りに相應しい十萬フランの身代金の要求となつて現れたので二人の貴婦人の驚愕はいふまでもない。私の番が來た時、私は私の貧しさを力説して一應この王様に信じこませた様であつたが、この王様の訊問の巧みさは遂に私を思ひがけない罫に追込んでしまつた。そして彼の結論は貧しい田舎宿の伴に一萬五千フランの身代金を要求したのであつた。抗議も反駁も全く無駄であつた。婦人達には15日、私には30日の猶豫期間を申渡されて私達は私達の部屋へ引下らねばならなかつた。部屋とはいへやはり野天である。青草の絨氈を敷いた窪地で、そこからはアテネの町が眼下にみえる。私達が平和に暮した町をこんなに近く臨みながら救ひを叫ぶことも出来ない今の身が實に感慨無量であつた。Haği-Stavros の奴は時計の様な正確さで約束の期限をすぎれば私の頭上に落ちて來ることを私はよく知つてゐる。身代金の當のない私はこのまゝこの草の葉の露になるのであらうか…… 夕方、彼等は私達の爲に寢室をこしらへてくれたが、家は粗末な天幕、寢臺は牝山羊の皮、何から何まで Simons 夫人の憤慨の種であつた。私達の番兵であるコルフ島人はこれは正に王侯に對する待遇だと誓つたが。夕食がすむや多事多端な一日の疲勞が一度に押寄せた。私は自分の天幕に退き何も忘れて眠りこんだ。

恐しい銃聲に突然夢を破られた。咄嗟に私はアテネの憲兵隊の救援だと信じて天幕の外へ飛び出した。隣りの天幕からも Simons 母娘が歡聲と共に駆け出して來た。然しそれは無駄な喜びであつた。銃聲はキリストの昇天の日と5月1日を祝ふ彼等、善良なるキリスト教徒の歡びの合圖だつたのである。炬火の明りで私達は彼等の恐しく騒々しい夜宴をみる事が出來た。„山の王者“は莊嚴な態度でその玉座に坐つて彼の人民共の歡びを見守つてゐる。彼は私達を宴會に招待して親切な言葉で彼一流の理論を私にきかせた。彼の山賊稅關吏論、彼の政治論、彼の英雄論、理想論。その奇妙な論説は奇妙な力で私を征服した。30日後には私の首をはねる筈のこの慘酷な老人に私は一種の畏敬を感じはじめた。宴が酣になるにつれて盜賊共は卑しい眼付をして Mary-Ann の圍りに集つた。それは彼女の騎士をもつて任ずる私の血を沸らせた。折から Mary-Ann に對して失禮な振舞ひに及ぼうとした Vasili に私は滿身の勇氣と共にとびかゝつた。幸ひに Haği-Stavros が駆けつけて無禮な部下をこらしめてくれたので私達は事無きを得たが、彼は親切にも私達の安眠を守るために私達の天幕の前で一夜を過してくれることになつた。然し私は眠る前に私の思ひ付いた最も良き解放策を彼女等の耳に入れねばならなかつた。私は祕かに Simons 夫人に請ひ、番兵達の隙をうかがつて深夜の會見を行つた。私は頑強に身代金の要求をはねつけてゐる彼女に、彼の分まで加へた十一萬五千フランの支拂ひをすゝめ、それを如何にして取戻すかを語らうとしたが彼女はみなまで聞かずに冷然と私の勸告を退け、剩へ私を山賊の同類の如く罵つた。嗚呼、かくては何をか言はやんやである。私

は今日一日の出来事を悲しく思ひ浮べて、まんじりともせぬ一夜を明した。

翌日、私は三通の手紙を書かねばならなかつた。一通は下宿の親父 Kristodulo へ、他の一通は親友 John Harris へ、最後に故郷の氣の毒な父へ。父への手紙には私の現状を訴へることをしなかつた。無駄だからである。私は唯それとなく別れの言葉と接吻をその中に封じ込めた。その時不覺にも私が落した涙は Hagî-Stavros の知るところとなつたが、彼は私を優しく慰め勇氣づけて、富豪の娘 Mary-Ann を獲得することが自由への近道であることを親切にも暗示してくれたのである。

その時 Mary-Ann とその母親は泉の傍に坐つて、帆布を縫ふ様な針と繩の様な糸とで服の裾を繕つてゐた。時々アテネの町の方へ視線をなげながら。私は黙つて彼女の豊かな栗色の髪を眺めてゐた。この素晴らしい髪を救ふためには私の命を賭けても惜しくないと思ひ、その瞬間、突然或る考へが頭に浮んだ。それは非常に危険ではあるが、絶対に不可能な策ではない。私は勢ひ込んでその案を彼女等に打明けた。然し私は直ちに私の大きな誤算に氣付かねばならなかつた。このロマンチックな冒険には Simons 夫人の存在を加算してなかつたのである。Simons 夫人は私の當惑を憐愍をもつて眺め、以前通り、英國の國力を信賴して憲兵達の救援を待つことを言明したのである。(次號完結)

「學校とエス語」に関する調査

につき御協力を乞ふ

明年夏の萬國教育會議に働きかけるため「學校とエス語」に関する資料を整備したいと存じます、できるだけ正確なものをあつめたいのです。結果は本誌上へ發表の豫定。

既にこれにつき各地方會へ調査依頼しましたがまだ十分ではありません。會員各位のこれに関する資料の御提供を願ひます。

調査したいことは

1. 學校(あらゆる種類の)で必修、選擇又は隨意科もしくは科外としてエス語を教授した學校の

1. 學校名。2. 教授期間。3. 教授者名。4. 聴講者數。5. 教授の程度。6. 教科書名。7. 講習費。8. 會場。10. 種別(必修、選擇、隨意、科外の區別)、11. 備考。

2. 學校内のエスペラント會について

1. 學校名。2. 會名(校友會に入つてゐる時はその正確な名前)。3.* 校友會へ入つた年月。4. 設立年月。5. 消滅年月又は中斷期間。6. 會長名(各時代により交代したのならば在任期間を記入)。7. 會長外エス運動支持の教師名。8. 會員數(各年度別)。9. 事業。10.* 校友會費をどれだけもらうか。11. 備考(校友會へ入つてゐる時はその會則の一部中エス部に關した部分をこゝへうつす。その他)。* 印は校友會に入つてゐる會についてのみ。

なほ詳細注意書の刷物及記入用紙は學會宛御申出により御送附申上ます。

之に關する御回答御返信は「東京市本郷區元町日本エスペラント學會 R.O. 編輯部宛」の事

内外^{エス}運動展望

Heroldo de Esperanto 再刊

ドイツで発行不能になった Heroldo de Esp. の主筆 Teo Jung 氏は目下オランダ又はベルギーで再舉をはかり Heroldo de Esp. を再刊するとの事である。

Esp. Triumfonta はその節は廢刊となる豫定である。詳細は後日報道しうらと思ふ。

オリンピック招致運動の反響

日本エス學會から世界のエス團體に對しオリンピック東京招致のため援助を乞ふ旨檄を出したことがポーランド第一の新聞「繪入日報」に報道された。

またパリの新聞 L'Oeuvre 等にもこの事が報道された。

第 28 回萬國エス大會

今夏ウィーンでの萬國エス大會については次號で詳細報道の豫定。同大會へ出席の豊

田ゆり子嬢は kostumbalo で第一等當選の榮をえた。

塚本博士の渡米と野上氏渡伊

日伊交換學生として日本から渡伊する學生の一人として同志野上素一氏（野上彌生女史令息）は 9 月 4 日神戸出帆の船で渡歐された。既報學會金澤支部長塚本赴夫博士（金澤醫大局長）は去る 9 月 4 日横濱出帆の船で渡米された。

エルマ・ライスは我が同志

この間來朝したアメリカの一流作家エルマ・ライス (Elmer Rice) 氏の歡迎會が 9 月 4 日早稻田大隈會館で開かれ文壇劇壇關係の人々約百名出席盛會であつたがその席上新協劇團を代表し挨拶された秋田雨雀氏はその節エス語を以てされた。あとでライス氏は自分もエス語をやつたことがあるから判つたとのべたとのこと。

雑誌「現代」のエス語支持の記事

雑誌「現代」10 月號にエス語に favora な記事が出た詳細は本誌本號 445 頁に轉載してあるから御覽下さい。

明年東京で開催の

第二十五回日本エスベラント大會は

11 月 20 日 (土), 21 日 (日), 22 日 (月), 23 日 (祭) 日

の四日間に確定



Sinjoro Sioyama al Usono

Sinjoro Kan'ichi Sioyama, la vicprezidanto de Oomuta Esperanto-Grupo kaj la ĉefinĝeniero de Miike Zinkrafinejo, ekveturos en la fino de septembro al Usono kun la komisiono varmigi amikecon inter usonanoj kaj japanoj, krom la speciala tasko komisiita de Mitsu Minokompanio. Li travojaĝos tra Usono dum ĉirkaŭ tri monatoj ekde Sanfrancisko al Novjorko kaj de tie reen al Sanfrancisko.

Li estas tre fervora esp-isto jam de dek jaroj.

Ni petas al usonaj samideanoj, ke ili afable helpu lin dum lia vojaĝo.

全 國 各 地 報 道

投稿注意:

1. 日本文にて・なるべくハガキで・迅速に・簡単に。
2. 締切大體前月18日(18日以後到着のものものをせることあり)。
3. 地方會誌を以て報道に代ふるをえず。
4. 寫眞は裏に必ず何の寫眞かといふ説明記入の事。
寫眞は返送せず資料として保存す。

東京 ★第25回日本大會準備委員會——
Jubilea Kongreso の記念をかね、エ
ス發表第五十周年記念の大會をいよいよ明年
に控へその準備委員會第一回會合を去る9月
13日午後7時より本郷森永階上に開催した。
出席者60名司會者、原田氏の挨拶につづき、
最初に大石氏の推薦により美野田氏を委員長
に萬場一致で可決し協議事項に入る。

1) この記念すべき大會を意義あらしめる
ため特に對外的にも宣傳に努める事。

2) 會期は明年11月中旬の四日間を選ぶ
事、出席者各々の活潑なる論議により以上二
つの事項を決定する、續いて委員會の規約設
定の小委員會を持つことが提議され、議長の
指命により以下の諸氏が挙げられる。

丸山、小坂、佐々城、川原、三石、岡本、
三宅、多羅尾、栗山、大島、青木、原田、久
保、梶、石黒(修)、渡部以上16名。

別室に於ける小委員會の決議により大會規
約草案委員會を開く事、其他詳細の事項につ
き次回準備委員會に於て報告する事等を議長
より出席者に述べ、本大會に對する各自の意
見、希望等を聴取し盛會裡に10時第1回準備
委員會を終る。

★大會準備委員會小委員會開催——9月19日
午後3時より學會階上に開催、前記準備委員
會於て選任されたる諸氏10名出席、美野田
委員長を議長に、慎重なる協議を遂げ大會規
約草案を作製し、續いて役員を選出、其他次
回會合の打合せ等あり6時散會す。(渡部氏
報)

★淺草エス會——9月5日午後7時より學會
階上に於て顧問岡本好次氏を中心に調査部座
談會を催す。原田、上田兩氏他15名出席渡
部氏目下着手中の調査事項報告に續き各係の
意見交換終つて岡本氏より特に學會の現状に
つき詳細なる御説明あり本會員の努力を期待
される旨等指示され10時散會す。

横濱 ★横濱エス協會——例會は毎木曜夜
7時より住吉町3丁目メツセンジャー

ボーイ事務所にて。出席者は毎回12,3名。
8月27日秋の講習會に付き協議。YMCAを
利用されたとの提議があつて、YMCAと
共同して開催することに決定。9月10日講習
會宣傳ポスター、展覽會のビラ等出來上り、
具體的宣傳に入ることとす。9月17日例會
の arango に付き協議。特別プロの編成と共
に一層會員の出席を計ることとす。

★YMCA-Esp. Grupo——上記の如く JEA と
共に初等講習會及展覽會を開催することとな
り、會員一同準備に忙殺されてゐる。例會は
毎火曜夜7時よりクラブ室で開く。

★Rondo Amikino——8月中は中止してゐた
例會も9月10日より開始した、會場は従前
通りメツセンジャーボーイ事務所毎木曜午
後5時より。

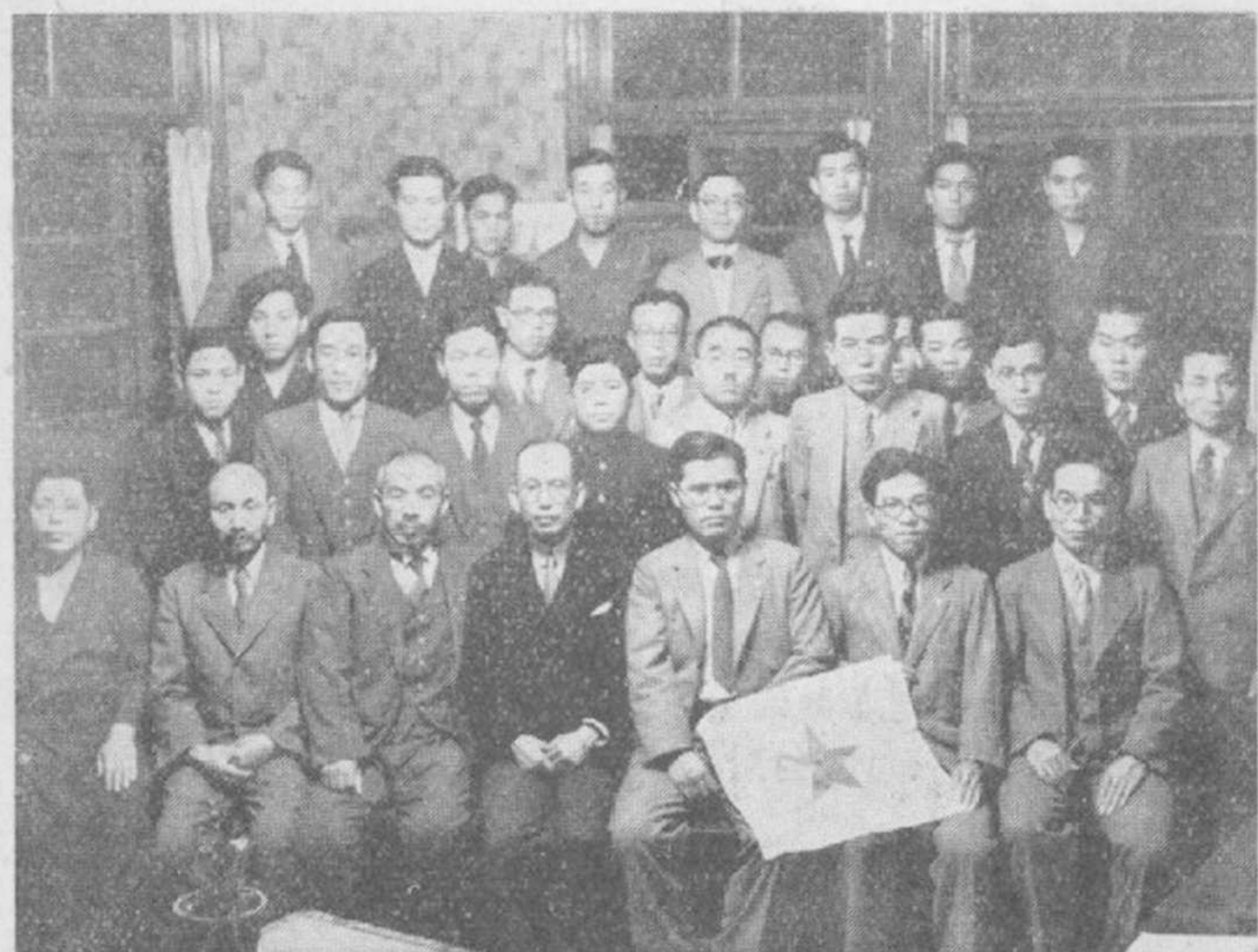
★初等講習會——上記講習會は9月22日より
約2ヶ月間、毎月金夜2時間宛 YMCA で
行ふこととなり、講師も渡邊輝一、飯田龜代
司、富盛源太郎、足立長太郎の4氏と決定した。
用書は短講。申込者は30名近くの見込み。

尙之に先立つて9月14日から3日間 Y
MCA で開かれたエチペラント展覽會は雨に
祟られ乍らも一般の入場者は300名を超え、
多大の宣傳効果を収めた。

★豫告——來る10月11日(日)神中鐵道沿線
の郊外に遠足會を催します。集合は午前9時
同線西横濱驛前のこと。費用約50錢一般同
志の參加を希望します。

浦和 ★浦高エス會——7月中旬本會員で
ある長野縣上伊那郡小野村の宇治氏
宅にてエス語合宿を行つた。小松宣也氏が來
訪されるなど研究及び親睦増加に多大の好果
があつた。本校卒業生であり熱心な同志であ
る野上素一氏(野上彌生子女史令息)は日伊交
換學生の一人とし9月4日照國丸にて渡歐さ
れた。◇8月初旬より深谷氏を講師として一
般初等講習會を開いた。參加者10名。◇世
田谷區田園調布に於て本會員土屋、市川兩氏
を講師として9月21日より約1ヶ月間初等
講習が開かれてゐる。中等科は毎週月水金の
三回、高等科は島地教授指導の下に行つてゐ
る。(河合氏報)

桐生 ★兩毛エス會——5月22日桐生市圖
書館にて本會の發會式を挙げ次いで
6月18日より8月17日迄初等講習を開き參
加者30名を突破する有様で多幸な門出をし
た。桐生機械會社前原社長を初め會員結束し
て進む事になつた。(寫眞參照)(本田氏報)



相生での講習會發會式

前列左より二人目から藤田大佐、圖書館長、前原會長、山本委員、本田茂行の諸氏。

宇都宮 ★宇都宮エスペランティスト・クルーボ絶えず研究を續けてゐたのであるが報道は 1934 年の 12 月號以來中斷して居りました。本年 1 月より 8 月までの會合數は 32 回延人員 106 名である。8 月 23 日村上秀夫氏來訪。暫く宇都宮を去つて居られた dentissimo F-ino A. Ito は本春歸宇され會合に出られてゐる。

盛岡 ★盛岡エス會 8 月 19 日 138 回例會事務整理、8 月 26 日 139 回例會、此日突然日本エス會の特使と自稱する東京の村上秀夫氏を迎へ懇談會を開いたが懇談會が討論會に早變りして MER-anoj の氣焰だけをお土産に差上げた。9 月 2 日 140 回、9 月 9 日 141 回、9 月 16 日 142 回、何れも新人を迎へて輪讀會を開いてゐる。

弘前 ★弘前エス會——本會は目下休止状態であるが今般我々 anoj de Hiro-saki Esp. Rondo 數名は古い同志谷山弘藏氏(新寺町 158)を圍んで再び研究會談話會を持たうとしてゐる。また近く初等講習會を開くつもり。青森の同志の援助もある筈。エス會は谷山氏方へ置く。

青森 ★青森エス會——昭和 9 年夏縣立青森病院で醫師 10 名に講習を gvidi し 10 年 2 月に街の中央柳町へ Esp.-kabineto を間借りして努力し小學生、中學生、商店員、會社員、官公吏とよびかけて誰彼をとはず宣傳。その中に古い同志神潔氏比較的古い大山竹次郎氏、小枝進氏その外に森谷氏、成田君、

齊藤君、最後に弟藤三郎が出てきた。

札幌大會、岡本特使の訪問を機會に publike に出てゆくことになり展覽會をやり普及講演會をもつた。特使訪問後 8 月 16 日佛國軍艦の Berteloot 氏を迎へた。

その後の講習は圖書館が都合わるく自宅で初等講習を 8 月末迄やつた。15 名。用書短期講習書。

9 月 11 日より毎週月、金に會するもの 5 人その以外の日にくるもの 4 人。Ivan をよむ。

初歩から女だけにも教へてゐます(4 名)。講習の組に入らずに自分の時間の餘裕を見て習ひにくる者 3 人。

外に弟藤三郎は中等學校教員連へ個人的に進出。日本キリスト教會へ出掛けて教師及幼稚園の先生に講習の筈。又縣廳の各課の若手級を集めて暇々に初歩の講習を開始中等科になつたら會の方へ出席する筈約 6-7 名。東奥日報社へ神氏が出馬されます。弘前の柳田氏から便もあり 10 月から弘前でも講習の豫定。



青森の同志と Berteloot 氏

右より葛西藤太、Berteloot, 葛西夫人、葛西藤三郎、神の諸氏。



青森の小枝氏送別會

右より小枝、葛西、神、大山の諸氏

當地と協力の筈。

毎月 15 日榮作堂でエスロンドを持つことを決定。青森を通過される同志の御立寄を歓迎します。(葛西藤太氏私信より)。

札幌 ★札幌エス會——◇8月13日花村、大崎兩氏再度來札。◇16日藤本氏來札。◇18日高瀬正榮氏を札幌エス會々長に推戴。又會の組織を強化することにつき相談。◇19日高瀬相澤兩氏控訴院長三宅正太郎氏や大學、市教育課長筒井氏北海タイムス等を訪問。日本大會に對しての援助の御禮申述。小樽の福田氏來札。◇21日帶廣佐藤氏來札。◇25日講習終了。記念茶話會を催す出席者 45 名(寫真次號掲載)。◇28日大會の後始末の相談會、千秋庵で。出席者 13 名。◇9月2日中等講習第一回。童話讀本、出席30名。講師高瀬會長。會場は回明堂眼科醫院。院長眞下先生は非常に好意をもたれてゐる。◇6日札幌エス會の發起で花魁淵へ ekskurso。一行 10 名。(寫真次號)。◇11日エス會話會を森永キャンデーストアに開催。第二第四の金曜日に集る。札幌エス會札幌エス會のどちらにも所屬してゐない中立的。

小樽 ★小樽エス協會——住吉神社境内の早朝會話會は高橋氏勤務先の事務所を會場として毎夕7時半より1時間開いて居る。福田氏宅に於ける通常例會には毎回 6, 7 名宛出席、テキスト・フランス篇を用ひ研究してゐる。尙暫く休止してゐた初等會話指導は9月より當分 11 日 24 日の午後7時半より8時半まで色内町5野澤方に於て日常會話を主として高橋氏指導の下に開かれてゐる。◇8月25日、福田仁一氏は小樽ロータリークラブ例會に出席大阪進藤靜太郎氏より同クラブ

に送られたエス文挨拶狀の翻譯を同クラブより希望せられた責を果す。同クラブに對するエス語導入運動は刮目されてゐる。

★小樽佛教エス會——9月7日量徳寺を會場として秋の集ひを催す、出席者 21 名。日本大會佛教分科會決議事項を全部實行せられたる事を岡崎會長より詳細報告、改めて同會々則決定、役員改選、懇談に移り記念撮影の後 22 時散會。新役員、會長岡崎靈夢氏、幹事邊見、藤川、本間氏の外に先頃開催の婦人講習會終了者の中より北道、竹内兩嬢が幹事に推薦され同女子部の今後の發展が期待されてゐる。例會日、7. 14. 21. 28 日會場量徳寺。

(高橋要一氏報)

帶廣 ★學會帶廣支部——8月下旬立派な機關誌 Verda triumpho 第二號を出した。研究會は北歐篇をやる事に變更。9月18日より使用してゐる。がん張りの佐藤長谷川兩氏を始め新人を交へて塚田、菅沼兩氏のよき理解の下に研究を進めてゐる。

(井上氏報)

旭川 ★旭川エス會——明年の大會に備へる爲に會員の向上を圖る爲に猛烈なる研究を木津會長宅に開いてゐる、なほ大會の前後を期して一大展覽會を開く豫定で材料を盛んに集めてゐる。

苫小牧 ★苫小牧エス會——8月26日大會參加の想出話をする。9月5日田中氏を講師として工業生の初講開始、9日新田爲男氏入會、三崎氏來訪、11日岡垣氏札幌エス會訪問。14日旭川エス會菅原氏來訪。

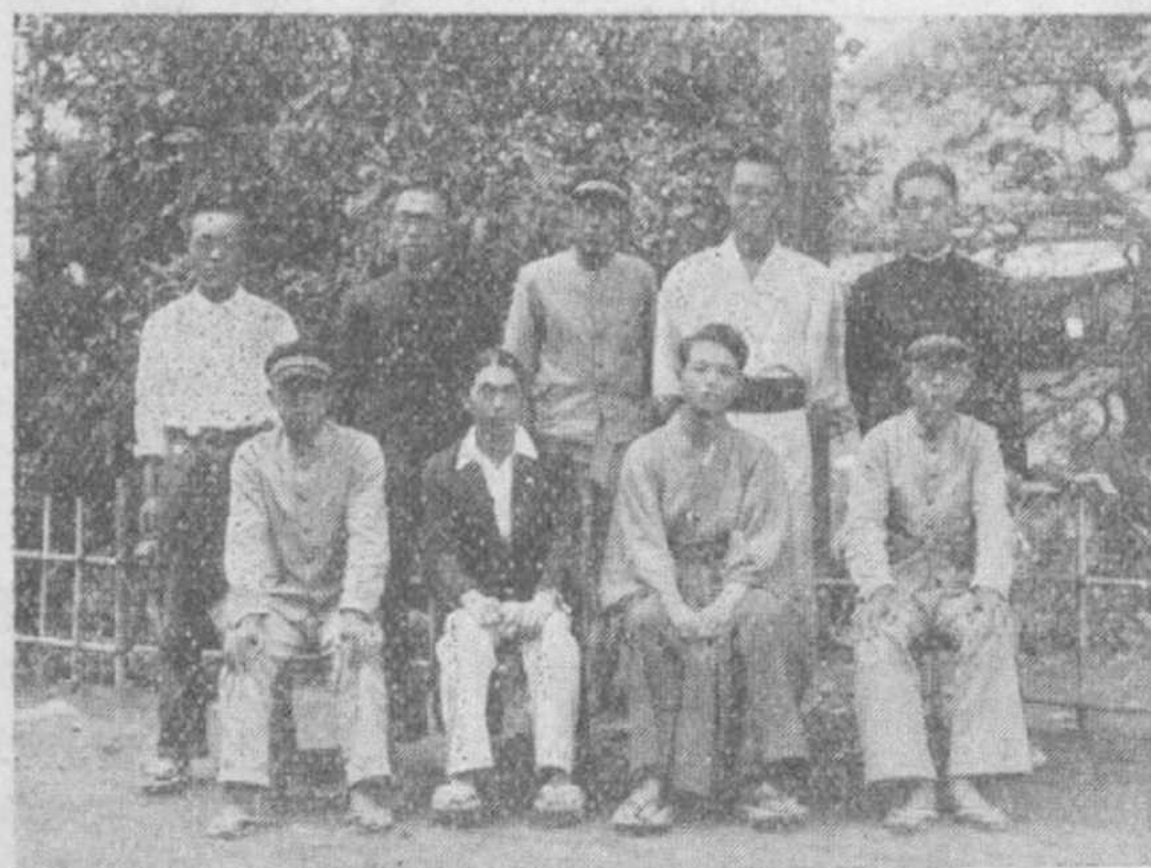
名古屋 ★名古屋エス會——8月7日機關誌 ORA DELFENO (4 號) 發行。火曜輪讀會は北歐篇を使用。8月18日熊本の本田、坂崎兩氏、27日桑名の加藤氏、9月1日東京の谷村氏それぞれ來訪された、9月12日由比、齋藤、矢崎諸氏は市の神田助役を訪問し汎太平洋博覽會の宣傳にエス語を利用されたいと進言した。當會の熱心な同志であつた武藤清七氏は 8 月 23 日逝去された。御遺族に對しお悔み申します。

N. E. S. 例會變更 從來火曜日の會合を次の通り變更

ルンダ・クンシード 毎週月曜 19 時半より 中區鐵砲2丁目白木方
中等輪讀會と會話練習
ジャウダ・クルソ 毎週木曜 19 時半より 同所にて初等講習

★ルーマ・クンシード——火曜例会はサンパウロ喫茶店にて19時より21時まで。金曜例会は名古屋新聞社三階集會室にて「カルロ」輪讀中、8月14日臨時總會を開催し會則並に幹事の改選を行つた。(會長)尾崎元親、(幹事)伊藤太郎、池田勝三郎、林一雄、戸田忠雄、上村寛、黒田昌雄、田中鈴子。

桑名 ★桑名エス・クンシード——第三次講習はスラヴ篇を使用、7月25日吉岡、福田氏、7月29日由比氏、8月16日吉岡氏來訪。



松代エス會夏期講習

左より〔前列〕吉村、栗林、大熊、小松、〔後列〕瀧澤、長谷川、丸山、小林、三井の諸氏。

松代 ★松代エス會——毎週水曜は初等講習を土曜は中等講習を20時より町立圖書館にて開催。役員を次の如く決定、(會長)栗林亨、(幹事)野本、關口、吉村榮祐、瀧澤ヨリエ。早起講習會を6時より海津公園御製碑前四阿にて9月15日より當分の間開催。

富山 ★富山エス會——マルダ・クンシードは目下北歐篇輪讀中、北陸日日のエス欄記事は各方面に話題の種となつてゐる。エスペラントに關する原稿を各地同志に願ひします。9月下旬大牟田より材料を借りて展覽會開催の豫定。(原稿は富山局私書函第28號富山エス會宛)。

京都 ★京都エス聯盟——◇總會、7月15日夜祇園八百文にて開催。昨年度の事業報告及び役員改選あり。近くエス運動30年記念事業を起すことに決す。◇8月例会、8月15日夜かぎやに大阪の桑原氏を迎へて歡談す。◇9月例会、9月15日京極森永にて記念展協議す。

エスペラント展覽會

9月29日—10月2日

京都大丸六階にて

エスペラント初等講習會

10月2日から11日まで毎夜7時から
京都市生祥小學校(四條富小路下車北へ)
會費2圓
野島安太郎、近藤國臣の兩氏指導
京都エス聯盟主催

明治40年日本エスペラント協會京都支部の發會式が生祥校で開かれて以來、この小學校はエス運動に因縁淺からず、ここでの講習會は毎回成績がよいと言はれてゐる。在京同志の後援を乞ふ。(現校長は故中野氏から指導を受けた由)。

大阪 ★大阪新星會——8月28日初等講習修了、參加者12名の中8名最後まで受講、引續き9月4日より毎週金曜日19時より中等講習開始。參加者6名、用書 Ivan 指導者兒島、山口氏。

例会毎週土曜日20時より用書“Printempo en Aŭtuno”の輪讀鑑賞。

神戸 ★板宿エスペラント會——永文堂ロンドの名稱を改め板宿エスペラント會とする。會長永井海乘氏に決定、毎日曜ザ讀本及び作文練習又は中等文法、毎水曜イソップ物語、何れも19時半より2時間場所は板宿停留所北永文堂書房。(岡部氏報)

福岡 ★學會福岡支部——秋季ピクニークを10月4日開催する事に決定した。9月18日より堀内氏を講師として九水俱樂部にて毎週水金二回講習會開催中。

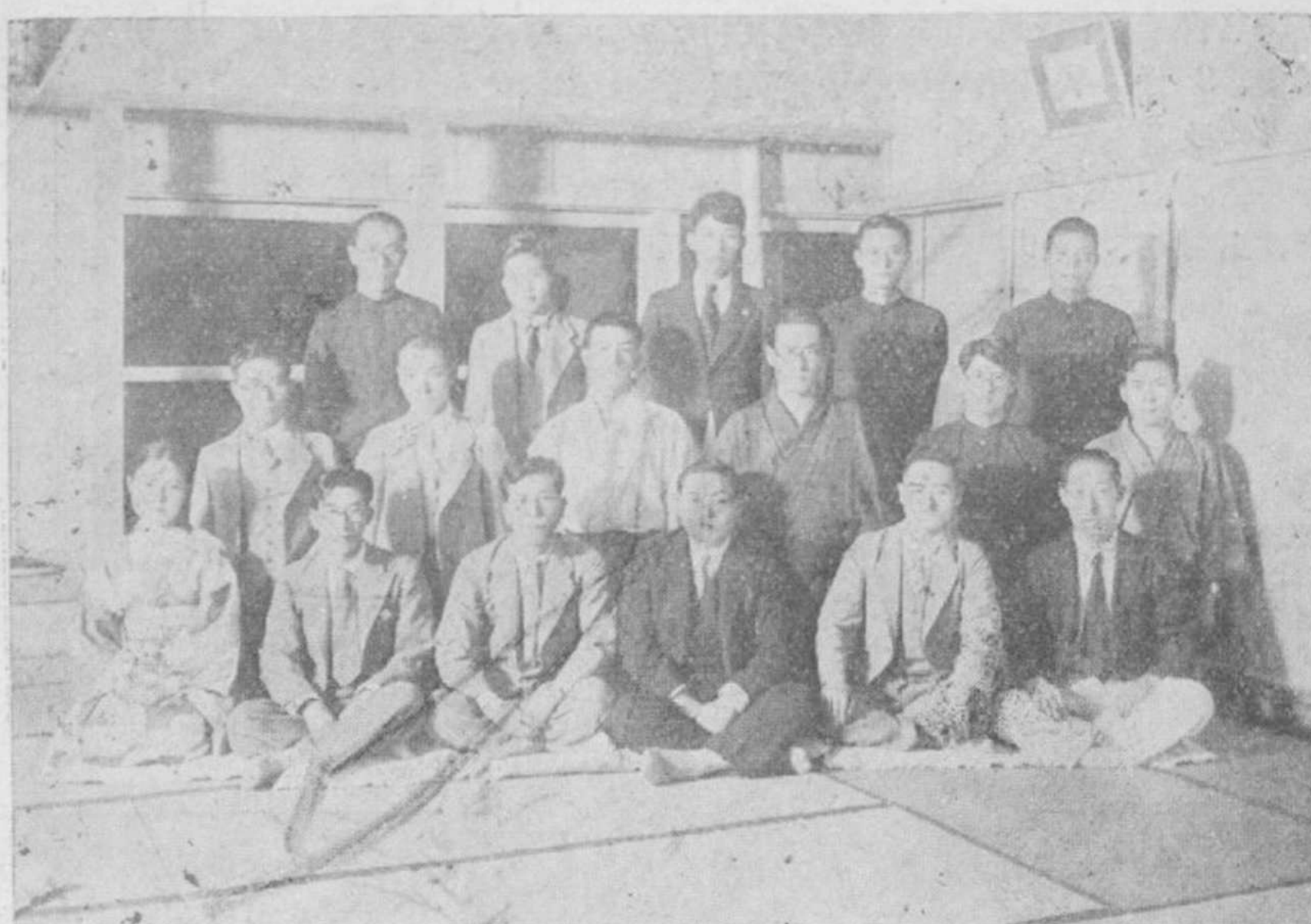
大牟田 ★大牟田エス會——當會の副會長である鹽山寛一氏(三井三池亞鉛製煉所工場主任)は9月末3ヶ月間の豫定で渡米される事になつた。◇本會の蒐集にかかる萬國兒童作品は其後朝鮮京城各地にて福日主催の展覽會を催し、續いて佐賀縣有田町(6月)福岡縣久留米市(6月)にて各地方會主催展覽會を開催盛況を呈した。尙9月中旬京都で下旬富山で夫々地元エス會の手で展覽會が開かれる豫定。

宮崎 ★宮崎エス會——例会はZ博士演説集を用ひる事になつた。初等講習は川野、古田兩氏を講師として開講中であつたが直ぐ終るので例会と合同の筈、9月30日はekskursoを行ふ豫定。

岡本特使をむかへて

旭川の懇談會

右より〔前列〕工藤、
木津、岡本、渡部、
武田、高宮、〔中列〕
吉岡、今井、遠藤、
橋本、松原、當摩、
〔後列〕池田、竹吉、
川名、片岸、藤田の
諸氏諸嬢。



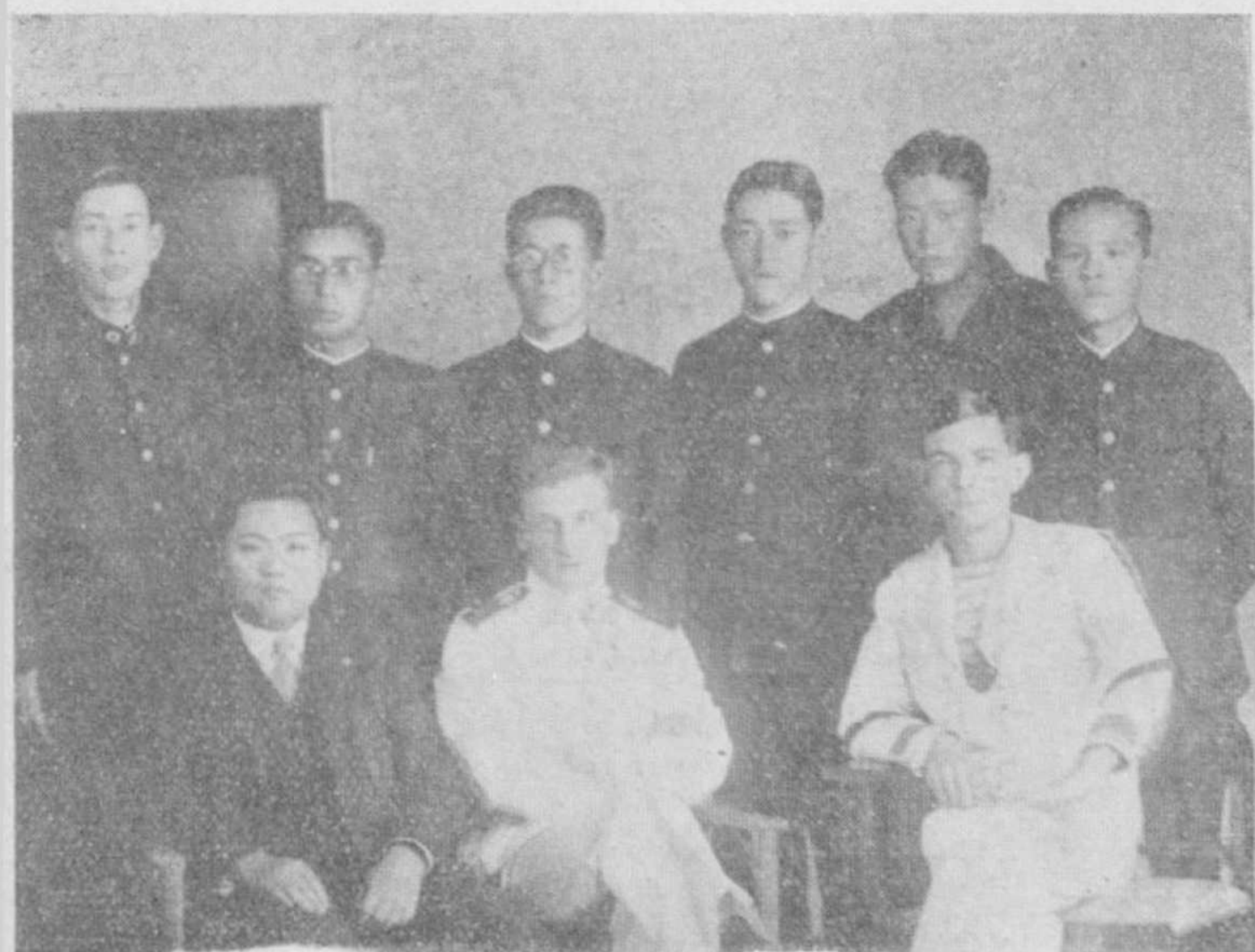
【中右】 秋田中田邸にて

右より中田、清水、岡本、萬澤、村上
の諸氏諸嬢（中田嬢撮影）



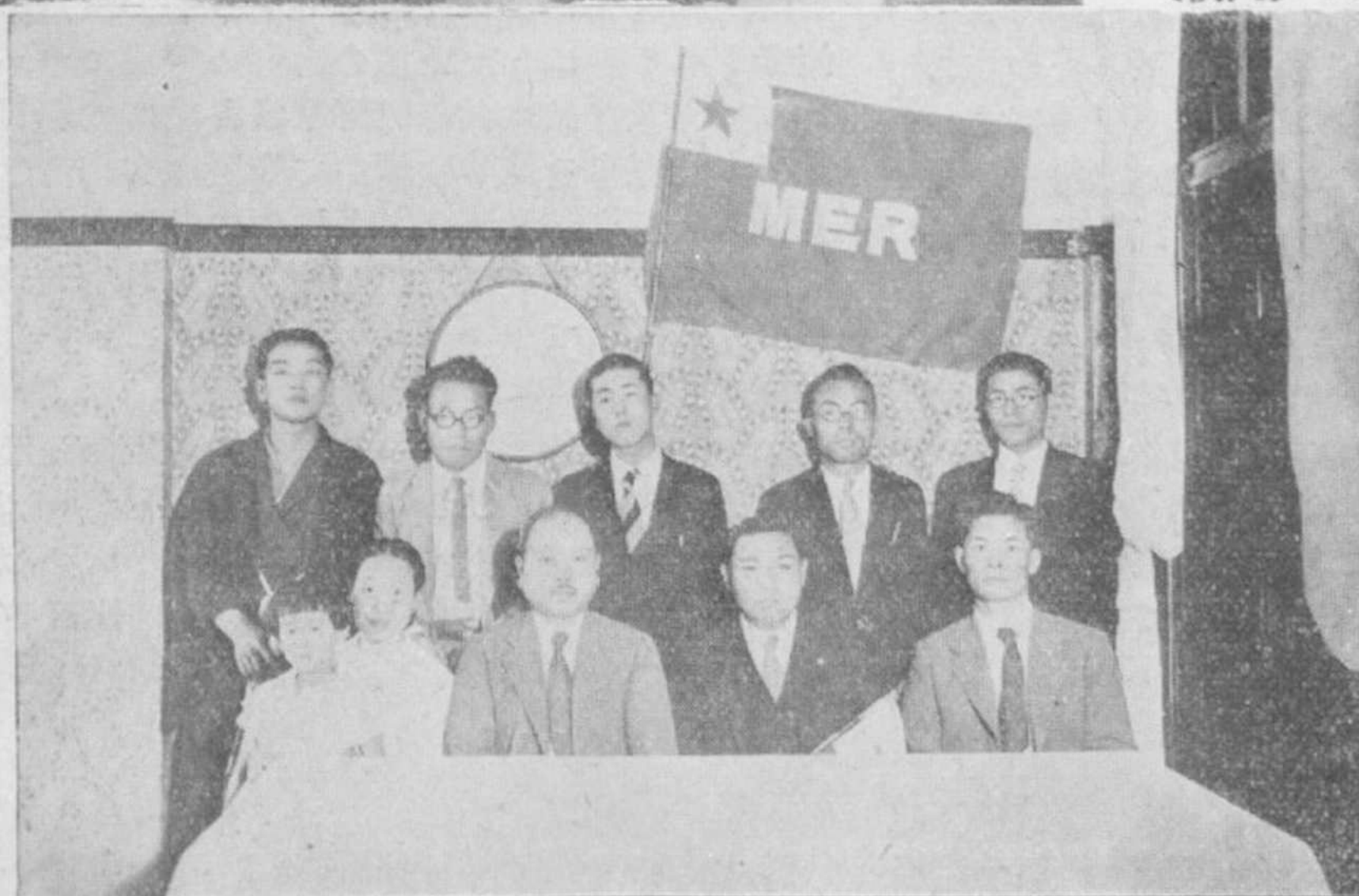
【中左】 室蘭での懇談會

左より〔前列〕Locret, Berteloot, 岡本、
〔後列〕中野、奥村、加藤、三木、東郷、
三崎の諸氏



盛岡での懇談會

右より〔前列〕大
川、岡本、井川、
安本（大井）、
〔後列〕小原、松
本、伊藤、松木、
佐藤の諸氏諸嬢



緑化組——熱心な同志の参加を望む。詳細は8月號「會員の聲」欄を御覽下さい。

會員、相澤治雄(札幌)、山下イワオ(宮崎)、葛西藤太(青森)、紹介の場合は小生に御知らせ下さい。(原田)

Anonceto

Orienta Kultro No. 2. 10月5日發賣。號を追ふて眞價は益々揚る。内容：歴史と人生(東洋史序論 I)——露木。日本神道史概要 I——福田。アイヌ文學概説 II——五十嵐。寫眞：日本の大輪菊。全エス文 四六倍判 季刊。頒價一部 30 錢 下 2 錢 郵券代用は 2 錢 切手にて)。入會規定及び小報第五號無代呈。東京駒込動坂 228 東洋文史研究所發行《學會取次》

學會水曜例会——10月21日(第三水曜)はエス文壇の双壁たる Baghy, Kalocsay がエスペランチストになつて今年は丁度25年になるので兩氏の夕を持つ事になり三宅史平氏がお話して下さる事になりました。來聴歡迎。

淺草エス會ピクニーコ——行先郊外京王沿線「關戸」玉川河畔。日時 10月4日(日曜)午前9時出發嚴守。集合場所新宿3丁目京王電車前。會費 90 錢(電車賃)辨當各自持參の事。

大阪エス會——學會支部、新星會、大鐵エス會共同主催の下に片町線津田驛下車徒歩約1.5軒へピクニーコを決行する。日時 10月4日(日)午前9時大阪驛東口(又は片町驛)に集合の事、旅費往復約 80 錢、辨當は各自持參の事。

新聞雜誌とエス

- ★十勝毎日新聞 (9月13, 15, 16日)——日本エスペラント大會印象記佐藤松男氏
- ★中外日報 (8月26, 27, 28, 29日)——日本エスペラント大會感想記——岡崎靈夢氏。
- ★北陸日日新聞 (9月1日)——エスペラント欄開設に際して——蟹江耕氏。(9月2日)——場内アナウンス雜感——馬場彌十氏。(9月3日)——辻利助君のおもひ出——米田徳次郎氏。(9月4日)——圓卓會議次第——久保貞次郎氏。(9月8日)——白山登山記——野村理兵衛氏。(9月9, 10日)——

英語の教師なればこそ——菅野祐治氏。(9月11日)——母へ贈る——セルゲー、イエセーニン。(9月12日)——綠星の便り——余川久雄氏。(9月15日)——ノルウェの子供達より。(9月16日)——旅行者のノートより——RF ヴォグハン。(9月17日)——外人同志の思ひ出——余川久雄氏。(9月18日)——萬國エスペラント大會——岩杉綠峰氏。

- ★北陸日日新聞 (9月5日)——エス界消息——少女部の活躍を報じてゐる。
- ★河北新聞 (8月21, 25日)——エスペラントが我國へ入るまで——岡本好次氏。
- ★讀賣新聞 (9月7日)——金髮群を蹴落して美人投票に第一位——として豊田ゆり子嬢の大會参加を報じてゐる。
- ★北國新聞 (8月25日)——佛典のエス語譯——竹内藤吉氏のエス譯出版の計畫を報じてゐる。
- ★大空詩聞 (110 號)——ハルキ蓄音器店主のエス語レコードに對する好意を報じてゐる。
- ★斷層 (9月號)(俳句雜誌)——エス譯俳句——川崎直一氏。
- ★學燈 (丸善)——電車の微笑——土岐善麿氏。
- ★新興佛教新聞 (9月1日)——ザメンホフ博士を偲ぶ——宮本統行氏。
- ★慈光 (52 號)——小樽佛教女性エス講習記事。(47 號)——佛教エスペランチストの使命——高橋要一氏。(41 號)——佛教エスペランチストは如何なる目的を持つか——脇坂圭治氏。
- ★謠曲界 (9月號)——「エス語ニナツタ能面」(Orienta Kulturo No. 1, 田村復之助能面紹介記事)。
- ★名古屋新聞 (9月18日)——汎太博の宣傳にエスペラントの力伊藤久雄君のかくれた斡旋として同君の紹介記事。
- ★大阪朝日新聞 (9月18日 名古屋市内版)——同上記事。
- ★新愛知 (9月18日)——同上。
- ★現代 (十月號)——オリンピック商賣往來の中にエス語にふれてゐる。
- ★唯物論研究 (8月號)——文學と言語の問題——高木弘氏
- ★教育・國語教育 (9月號)——言語社會學の問題——菊澤季生氏。
- ★國際佛教通報 (6 號)——La resolucio de la 6-a jarkunveno de Ligo de T. J. B. A.

- ★國際佛教通報 (8 號)——Universala Budhana Kongreso——中西義雄氏。
- ★兒童 (9-12 月號)——うそつき = コ (Niĉjo-Mensogulo の和譯)——中垣虎兒郎氏。
- ★モダン日本 (8 月號)——世界人マラン——中垣虎兒郎氏。
- ★東京朝日 (東京版) (9 月 15 日)——磯部嬢のこと

地方會機關誌その他

- ★La Fervojisto (鐵道聯盟) (59 號) 菊判 16 頁、大會印象記 (萬澤)、Pri esperantomorado en Japanujo (高橋)、Ankoraŭ unu venk' en verda kampo (大谷)。
- ★FER (東鐵) (9 號) 日本大會に出席して (高橋)。
- ★La Verda Triumfo (帶廣) (2 號) 10 頁 私のエス語 (渡邊)、Petolaĵo (長谷川)。
- ★Saluton (名古屋) (2 號) 菊判 40 頁、エスペラントと文學 (米村)。
- ★La Elektrujo (電氣) (7-8 號) 菊判 14 頁、Pri la elektrentrepreno en Manĉurio. (田中)。Metodo por mezuri la naturondolongon de metalturo fikse konektita al la tero (橋田)。
- ★Scienco (科學協會) (3 號) 菊判 32 頁、研究業績發表用語の問題 (前田)、各辭典中の植物名の類 (川崎)、Medicina Krestomatio (鈴木)。
- ★Bulteno de K. E. L. (京都) (9 號)、展覽會豫告。
- ★Forta Voko (富山) (9 月號) 12 頁、Bonzo kaj Liaj Disĉiploj (松田)。
- ★A. E. S. (淺草) (3 號) 菊判 6 頁、曉に黙するものへ (大橋)。
- ★Amiko (岡山) (16 號) 14 頁。
- ★La Libero (大阪) (20 號) 10 頁、Specialeco de Ŝin-Budhismo (中西)、Jesuo? Ŝiuran? (山中)

KORESPONDA FAKO

- ★S-ro W. R. Koopmans (ŝtata oficisto), Leusderweg 215, Amersfoort, Nederlando; dez. krsp. pri E-movado, interŝ. EG, broŝ. landkartoj. Donas informojn al fremul-trafikaj unuigoj。

★S-ro Jun-Ki Choe, No. 63 Reichi-cho, Seoul, Korea (Koreujo); dez. krsp. pri ĉiuj temoj k interŝ. PK. Foto G, libr. de E, aŭ angla lingvo kun eksterl. k enland. ges-anoj. Tuj respondos.

★S-ro Gaston Haudréchy, Longpré-les-Corps Saints, (Somme) Francujo; 日本の fraŭlinoj と文通したし。當方 20 歳。

★S-ro F. Placodio, Via Dalbertis 16, Geneva (Italia), ŝanĝe de 100/1000 PM. mi sendos saman Kvanton da Italaj. Korespondas esperante kaj france.

★轉居 (Transloĝigo) nova adreso: — Wayne Jackson, General Delivery, Seattle Wash. Usono.

★Librosignon (ekslibrison) kun esperanta stelo presigis por sia biblioteko Fr. Buhr, vicprezidanto de la Ligo de katolikaj esperantistoj en Ĉeĥoslovakujo, Praha-Brevnov 514 La librosignon ricevos ĉiuj kolektantoj senpage se ili sendos ilustritan poŝtkarton bildflanke afrankita.

編輯後記

★今月號は記事の都合でエス文が一つものせられなかつたのは遺憾でした。あしからず。その中にうめあはせにエス文を多くしたいと思つてをります。

★雑誌『現代』のオリンピック商賣往來は近來のヒットである。

★日米學生會議でのエス宣傳は大成功であつたことは久保氏等の記事を見ていただければよい。

★城戸崎氏の Marta 語彙の統計は長い期間の努力の結晶である。

★林氏の記行文は次回完結。南洋の親類巡りの記録である。

J E I 年鑑

J E I 年鑑に掲載のため各地地方會の組織役員名事業その他につき御報告をいただきたく先般各地方會へ問合せを出しましたがまだ受取らない會は至急その旨申出で下さい。そうすれば記載する用紙記載事項等を印刷したものをお送り致します。

日本エスペラント學會年鑑係

新 荷 到 着

PLENA VORTARO

定價 4 圓 50 錢・送料 21 錢・内地外 24 錢

暫く品切のところ多數入荷、またも賣切れぬうち至急御注文あれ。なほ今回發行元と屢々折衝の結果、中國および、その他アジア諸國からの注文に限り、國內定價で販賣。但しヨーロッパ向再輸出は絶對に斷り。その事實が起きたばあひは、現在の定價による取引を中止される故、他の迷惑とならぬよう一般の御注意を願ひます。

ODUSSEIAS DE HOMEROS

W. Manders 譯
菊判約 300 ペイヂ

並製 1 圓 70 錢・送料 10 錢
上製 2 圓 50 錢・送料 12 錢

人類永遠の至寶ホーメロス（ホーマー）萬代不易の大文字、「オディセイ」の散文譯。

Brontë 作
Bulthuis 譯

JANE EYRE

菊判 500 ペイヂ
定價 1 圓 80 錢・送料 14 錢

十九世紀のイギリス文壇に偉大な亢奮を與へた女流作家の最大傑作。愛と理性と意志と赤裸々な女性像。

Timmermans 作
Jan van Schoor 譯

PALLIETER

菊判紙裝 200 頁
1 圓 50 錢・送料 8 錢

小鳥のやうに、風のやうに、廣い、美しい、世界を見るために旅立つた陽氣な男と、彼の美しい妻と三つ兒の物語。

上記三書とも前回入荷は忽ち賣切れ、長らく品切れのところ、各少部數入荷。いづれも原價値下りのため前回よりもはるかに廉價。

東京市本郷
元町一丁目

財團
法人

日本エスぺラント學會

電話小石川 5415 番
振替東京 11325 番

仲秋

講習會の好季節です!!

初級用

小坂 狷二：エスペラント講習用書 30 錢・送料 2 錢

20 回乃至 30 回の、どちらかと云へばインテリを集めての講習會に適します。みつちりやれば十分實力がつきます。なほこれでやるなら講師は同一材料を獨習用兼教師用に編纂した「エスペラント捷徑」(50 錢, 送料 4 錢) を虎の巻とすることをお忘れなきよう!

井上萬壽藏：エスペラント讀本 30 錢・送料 2 錢

多數の挿畫を入れ、小學上級生乃至中等學校初年生程度の年少者にも解るやさしい讀本、直接教授法を加味した講習會にぜひ!

學會編輯部：エスペラント短期講習書 20 錢・送料 2 錢

短期間に文法一般に通じさせるやうになつてゐます。1 週間乃至 10 日間くらの短期連續講習には最も適當です。

學會編輯部：エスペラント初等講座 20 錢・送料 2 錢

外國語の素養なきものに自修させながら教へるにはこれが最好適。

中級用

小坂 狷二・大井 學編：エスペラント中等讀本 30 錢・送料 2 錢
岡本 好次 共編

笑話その他多數の讀物を蒐め、興味のうちエスペラントに習熟させるやうになつてゐます。「エスペラント讀本」と連絡すれば便利。

小坂 狷二：イソップ物語 25 錢・送料 2 錢

最も信頼すべきエスペラント文に親切明快な脚註が加へてあるから講習會の教材とする以外にも副讀本として與へることができます。

下村 芳司：エスペラント童話讀本 20 錢・送料 2 錢

トムサム物語、七匹の子山羊、等、等、廣く世に知られた西洋の童話九篇のエスペラント譯です。獨習者の讀物としても上乘です。

研究會用

城戸崎益敏： ザメンホフ讀本 全三卷各20錢，送料2錢
合 卷 50錢，送料4錢

I ザメンホフ翻譯抄，II ザメンホフ原作抄，III ザメンホフに関する文獻抄。I, II は多少高級な中級講習にも適當です。

小坂狷二： ス ラ ヴ 篇 エス文藝讀本・1
25錢 送料2錢

プーシュキン「吹雪」，ツルゲネフ「散文詩」，その他，トルストイ，ゴーゴル，チェホフ等，等の拔萃，註付，中級にも適します。

川崎直一： フ ラ ン ス 篇 エス文藝讀本・2
25錢 送料2錢

ドーデ，ユーゴー，メリメ，ヴェルレーヌ，フランス等，々の拔萃，註付。一般的講習會にはすこし不向ですが……

三宅史平： 沙 翁 悲 劇 篇 エス文藝讀本・3
30錢 送料2錢

ハムレット，マクベス，リヤ王，シーザの梗概と最も劇的な場面。親切なエス文註附，高級研究會用としてお勧めします。

高木 弘： 北 歐 篇 エス文藝讀本・5
30錢 送料2錢

アンデルセン，ストリンドベリ，イブセン等の小説，童話，戯曲等の拔萃，註付。附録「アンデルセンとザメンホフ」は必讀の文字。

會話を主とするれば

✓Privat: KURSA LERNOLIBRO 60錢・送料2錢

會話用句と，讀物を中心とした會話練習用問題集。初級からでも中級からでも用ゐて効果をあげることができます。

その他洋書は御注文よりまへに數量明記御相談ください

講習生に「エスペラント」舊號見本（號數指定お斷り）無代で進呈いたしますから，講習用教材御注文のとき入用部數お申し添へください

東京本郷
元町・一

財團
法人

日本エスペラント學會

電話小石川 5415
振替東京 11325

| | | | |
|-----------------|-----------------------------|--------|-------------|
| エスペラント 捷徑 | 多少外國語素養ある者のため最良の獨習書… | 0.50 | 4 |
| エスペラント 講座 | 外國語を知らぬ人のため最良の獨習講義録… | 0.50 | 4 |
| 新撰エス和辭典 | 語數豊富, 譯語正確, 携帶至便… | 上 0.80 | 2 並 0.60 2 |
| 新撰和エス辭典 | 見出語數6萬, 出典明示, 附錄豊富, 印刷鮮明… | 2.50 | 6 |
| 新撰エス文手紙の書方 | 書簡百科辭書の觀, 例文豊富, 四六判 370 頁… | 1.20 | 8 |
| エスペラント日記の書方 | 365日, 1日1文例, 社會萬般の生活記録, 譯註付 | 1.20 | 6 |
| エスペラント講習用書 | エスペラント 短期講習書 | 0.20 | 2 |
| エスペラント初等讀本 | エスペラント 中等讀本 | 0.30 | 2 |
| エスペラント童話讀本 | イソップ物語 親切明快, 脚註付 | 0.20 | 2 |
| ザメンホフ讀本 | ザ著作拔萃…全3卷, 各卷 0.20 2 合卷 | 0.50 | 4 |
| エスペラント醫學文範 | 醫學論文の好模範, 醫學生の講習會に最好適 | 0.40 | 4 |
| エスペラント發音研究 | エス語發音上の疑問を氷解す | 0.30 | 4 |
| エスペラント文例集 | 重要語 720 の文例 | 0.80 6 | カード 1.50 14 |
| 點字エス文法と小辭典 | エスペラントの鍵 | 0.05 | 2 |
| リングヴィ・レスポンドイ | ザ博士の言語上の解答を蒐む必備の書 | 0.50 | 4 |
| 國語の擁護を論じて國際語に及ぶ | 黑板博士の歴史的論文其他を収む | 0.20 | 2 |
| 言語學と國際語 | スピリドヴィッチの新言語理論 | 0.70 | 6 |

エスペラント文庫

| | | | | | |
|-------------|------|---|--------------|------|----|
| 1. ザメンホフの生涯 | 0.40 | 4 | 3. 世界語の歴史 | 1.50 | 10 |
| 2. 國際通信の常識 | 0.50 | 4 | 4. エスペラントの會話 | 0.40 | 2 |

エスペラント對譯詳註叢書

| | | | | | | | | | |
|-----------|-----------|----------------|---|----|-----------|------|---|------|---|
| 1. | マテオ・ファルコネ | 0.30 | 2 | 4. | 代理通譯 | 0.30 | 2 | | |
| 2. | ハイネ詩集 | 0.30 | 2 | 5. | 愛あるところ神あり | 1.50 | 6 | | |
| 3. | 魔法使 | 0.30 | 2 | 6. | レイモント短篇集 | 0.30 | 2 | | |
| エスペラント童話集 | | 「エス童話讀本」の對譯脚註篇 | | | | | | 0.60 | 4 |

エスペラント文藝讀本

| | | | | | |
|----------|------|---|----------|------|---|
| 1. スラヴ篇 | 0.25 | 2 | 3. 沙翁悲劇篇 | 0.25 | 2 |
| 2. フランス篇 | 0.30 | 2 | 5. 北歐篇 | 0.30 | 2 |

エスペラント書と文獻

| | | | | |
|----------------|-------------------|--------|--------|---|
| 惜みなく愛は奪ふ | 有島武郎の傑作 | 上 1.00 | 並 0.75 | 4 |
| ヴェルダ・カルト | 大朝懸賞當選小説, 五十年後の社會 | 1.00 | | 4 |
| 中村精男博士遺稿 | 原作科學論文, 文學作品の翻譯等 | 0.70 | | 4 |
| 佐々城松榮遺稿集 | 原作對話, 翻譯文學等 | 0.80 | | 4 |
| 綠葉集 | 伊井迂著原作詩と詩歌俳句等の翻譯 | 0.80 | | 4 |
| 日本書紀 | I 神代, 神武紀 II (近刊) | 1.20 | | 6 |
| 海神丸 野上彌生子 | 東洋の俠血兒 長谷川伸 | 0.45 | | 4 |
| 骸骨の舞踏 秋田雨雀劇曲三篇 | 倫敦塔 夏目漱石 | 0.15 | | 2 |
| 佛說阿彌陀經漢譯對照 | 霧の中山 本有三 | 0.15 | | 2 |
| 日本民族の起源 | 日本刀劍鑑 | 0.15 | | 2 |
| 大學中庸 | 孝經 | 0.30 | | 2 |

Baghy - Kalocsay

エスペラント生活二十五周年紀念

エスペラント文壇の双璧 Baghy と Kalocsay とがエスペランチストとなつて今年は正に第二十五周年、この四分の一世紀の間に、この兩雄の残した足痕は甚だ偉大である。エスペラント文學に志す者は勿論、いやしくもエスペラント運動に熱意を持つ者は少くとも各一冊は求めて、この二巨人の功績に敬意と祝意とを表されよ。(AELA 會員・定價二割引)

Baghy 著

・ 散 文 ・

✓ Dancu Marioneto 並 0.65 4
上 0.90 6
興味深い短篇小説數篇

✓ Hura! 並 3.10 20 上 4.70 21
人道主義を高調した最大長篇傑作

✓ Migranta Plumo 1.40 4
短篇小説、戯曲、詩

✓ Printempo en la aŭtuno 1.00 4
美しい青春物語

✓ Verdaj Donkiĥotoj 2.00 6
エスペランチストの生活を描く長篇

✓ Viktimoj 並 1.30 6 上 1.60 6
特 2.00 6
シベリアの捕虜生活を描く代表的傑作

✓ Sur Sanga Tero 2.00 4
Viktimoj の續篇、映畫的迫力

✓ Teatra Korbo 0.80 4
隨筆、感想等の小品集

・ 詩 ・

✓ Pilgrimo 並 0.80 2 上 1.20 4
美しい長篇詩、劇詩集

✓ Perter la Vivo 並 0.80 4
上 1.15 6
愛唱すべき珠玉の短詩集

Kalocsay 著

・ 原作 詩 ・

✓ Mondo kaj Koro 0.20 2
處女作品集として歴史的

✓ Streĉita Kordo 並 1.25 6
上 1.60 6
胸も高鳴る美しい詩集

✓ Rimportreto 0.45 4
エス界の花形を槍玉に歌つた詩集

・ 翻譯 詩 ・

✓ Eterna Bukedo 並 2.60 8
上 3.10 10 特 3.60 10
各國の代表的大詩人の名作の名譯集

✓ Infero 並 2.50 10 上 2.90 10
ダンテ神曲の地獄篇。神品の名譯

✓ Romaj Elegioj 0.80 2
ゲーテの艶麗な愛慾抒情詩

✓ Tragedio de l' Homo 1.05 6
ハンガリの詩聖 Madach の最大傑作

✓ Johano la Brava 1.00 2
ハンガリ大詩人 Petöfi の最傑作

・ 研究 書 ・

✓ Lingvo Stilo Formo 並 0.60 4
上 1.00 4
造語論韻律論等必讀の文字

Kalocsay 共著 } Plena Gramatiko (各人必讀必備の大文法) 3.10 15
Waringien } Parnasa Gvidlibro (作詩法、韻府、詩語辭典) 並 1.05 6
上 1.40 8
Hekler 著 : Kalocsay 譯 } Arthistorio I (ルネツサンスまで) 3.10 21

エスペラント

あなたはこのごろの「エスペラント」誌のすばらしさを御存じですか。まだなら書店の店頭でちよつと手にとつてごらんなさい。新鮮な記事ばかりです。そして日本における新しい、生々したエスペラント文體は、この雑誌からひろがつてゆきます。この雑誌を読まなければ、新しい時代からとりのこされます。定價20錢。舊號見本は10錢です。切手でもよろしうございます。



財團法人
日本エスペラント學會
東京 本郷 元町